目次

無機化学

第1部 非金属元素 3 7 リン 1.1 性質 3 7.1 リン 1.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	目次			6.3 6.4 6.5 6.6	一酸化二窒素(笑気ガス) 一酸化窒素 二酸化窒素 硝酸	12 12 13 13
1.1 性質	第Ⅰ部	非金属元素	3		リン	14
1.2 同位体 3 7.3 リン酸 1.3 製法 3 8 炭素 2 貴ガス 3 8.1 炭素 2.1 性質 3 8.3 二酸化炭素 2.2 生成 3 9 ケイ素 2.3 ヘリウム 3 9.1 ケイ素 2.4 ネオン 3 9.2 二酸化ケイ素 2.5 アルゴン 3 9.2 二酸化ケイ素 3.1 単体 4 4 3.2 ハロゲン化水素 5 10 アルカリ金属 3.3 ハロゲン化水素 6 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・塩酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・塩化カルシウム(24石灰) 4.1 酸素原子 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム(24石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(24石灰) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム・11.7 硫酸ペリウム 4.6 酸黄 9 12 12 旋元素 5.1 硫黄 9 12 12 族元素 5.3 二酸化成黄(亜硫酸サトリウム(ハイボ) 11 12.2 酸化亜鉛(三鉛・水酸化亜鉛(11)・塩化水銀(11)・塩化水銀(11)・塩化水銀(11)・塩化水銀(11)・塩化水銀(11)・塩化水銀(11)・塩化水銀(11)・塩水・水酸化アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・	1	水素	3	7.1	リン	14
1.3 製法 3 8 炭素 8.1 炭素 8.1 炭素 8.2 一般化炭素 8.1 炭素 8.2 一般化炭素 8.3 二酸化炭素 8.3 二酸化炭素 8.3 二酸化炭素 8.3 二酸化炭素 9.2 生成 3 9.2 二酸化ケイ素 9.1 ケイ素 9.1 ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.1 ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.1 ケイ素 9.2 二酸化ケイ素 9.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム 6.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム 6.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム 6.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム 6.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム 6.3 炭酸大 9.1 1.1 単体 1.2 酸化カルシウム (岩石灰) 4.4 酸化物 8.1 1.4 炭酸カルシウム (岩石灰) 4.5 水 8.1 1.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 1.6 硫酸 カルシウム (沼石灰石) 4.5 水 8.1 1.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 1.6 硫酸 カルシウム 1.6 硫酸 カルシウム 1.7 硫酸 1.1 炭酸 カルシウム 1.1 硫酸 1.1 炭酸 1.2 酸化 1.1 硫酸 1.2 酸化 1.1 硫酸 1.2 酸化 1.1 硫酸 1.2 酸化 1.1 硫酸 1.2 酸化 1.1 量化 1.2 酸化 1.1 硫酸 1.2 酸化 1.1 量化 1.2 酸化 1.1 量化 1.2 数 位 1.1 点 1.2 点 1.3 点 1.3 之 1.3	1.1	性質	3	7.2	十酸化四リン	14
1.4 反応 3 8 炭素 2 貴ガス 3 8.2 一般化炭素 2.1 性質 3 8.3 二酸化炭素 2.2 生成 3 9 ケイ素 2.3 ヘリウム 3 9.1 ケイ素 2.4 ネオン 3 9.2 二酸化ケイ素 2.5 アルゴン 3 9.2 二酸化ケイ素 3.1 単体 4 4 3.2 ハロゲン化水素 5 10 アルカリ金属 3.3 ハロゲン化水素 6 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム(苛性ソーダ) 3.5 塩素酸カリウム 6 10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・ 4 酸素 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム(第石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム・ 4.5 水 8 11.6 硫酸カルシウム・ 4.5 水 8 11.7 硫酸ハルシウム・ 5.1 硫黄 9 12 放元素 5.2 硫化水素 9 12 放元素 5.3 二酸化硫黄 (亜硫黄) 10 12.1 単体 5.5 テオ硫酸ナトリウム (ハイボ) 11 12.3 塩化水銀 (I)・塩化水銀 (II) 5.6 重金属の硫化物 12 13.1 アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・ 6 窒素 12 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・	1.2	同位体	3	7.3	リン酸	14
1.4 反応 3 8.1 炭素 2 貴ガス 3 8.2 一般化炭素 2.1 性質 3 8.3 二酸化炭素 2.2 生成 9 ケイ素 2.4 ネオン 3 9.1 ケイ素 2.5 アルゴン 3 9.2 二酸化ケイ素 3 ハロゲン 4 第川部 典型金属 3.1 単体 4 3.2 ハロゲン化素 3.3 ハロゲン化銀 6 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム(荷性ソーダ) 3.5 塩素酸カリウム 6 10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・ 4 酸素 7 11.2 酸化カルシウム(住石灰) 4.1 酸素原子 7 11.2 酸化カルシウム(住石灰) 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム(海石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(海石灰) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム・ 5 硫黄 9 11.7 硫酸バリウム 5.1 硫黄 9 11.7 硫酸バリウム 5.2 硫化水素 9 12 12 族元素 5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 5.5 チオ硫酸ナトリウム(ハイボ) 11 12.3 塩化水銀(1)・塩化水銀(11)・塩化水銀(11)・塩化水銀(11)・塩化水銀(11・塩の硫酸(11)・塩の酸(11)・塩の酸(11)・塩の酸(11)・塩の酸(11)・塩の酸(11)・塩の酸(11)・塩の酸(11)・塩の酸(11)・水酸化、11)・水酸化、11)・塩の酸(11)・水酸化、11)・塩の酸(11)・塩の酸(11)・塩の酸(11)・塩の酸(11)・水酸化、11)・	1.3	製法	3	_		
2 貴ガス 3 8.2 一酸化炭素 2.1 性質 3 8.3 二酸化炭素 2.2 生成 3 9 ケイ素 2.4 ネオン 3 9.2 二酸化ケイ素 2.5 アルゴン 3 9.2 二酸化ケイ素 3 ハロゲン 4 第日部 典型金属 4 第日部 典型金属 第日部 典型金属 3.1 単体 4 10.1 単体 3.2 ハロゲン化水素 5 10.1 単体 3.3 ハロゲン化銀 6 10.2 水酸化ナトリウム (荷性ソーダ) 1 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム (荷性ソーダ) 1 3.5 塩素酸カリウム 6 10.3 炭酸ナトリウム (荷性ソーダ) 1 4.1 酸素原子 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム (海石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム (海石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム (海の大) 5 硫黄 9 11.7 硫酸カルシウム (海の大) 5	1.4	反応	3			15
2.1 性質 3 8.3 二酸化炭素 2.2 生成 3 9 ケイ素 2.3 ヘリウム 3 9.1 ケイ素 2.4 ネオン 3 9.2 二酸化ケイ素 2.5 アルゴン 3 9.2 二酸化ケイ素 3 ハロゲン 4 第Ⅱ部 典型金属 3.1 単体 4 10 アルカリ金属 3.3 ハロゲン化銀 6 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム(青性ソーダ) 3.5 塩素酸カリウム 6 10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム 4 酸素 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム(生石灰) 4.3 オゾン 7 11.3 水酸化カルシウム(百灰石) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 5 硫黄 9 12 12 族元素 5.1 硫黄 9 11.7 硫酸バリウム 11.6 硫酸パリウム 5.4 硫酸・ボーラウム(小イボ) 11 12.2 酸化亜鉛(亜鉛単)・水酸化亜鉛(三)・水酸化亜鉛(三)・水酸化亜鉛(三)・大酸化水銀(目)・塩化水銀(目)・塩化水銀(目)・塩化水銀(目)・塩化水銀(目)・塩化水銀(目)・塩化水銀(目)・塩化水銀(目)・塩化水銀(目)・塩化水銀(日)・土地へ北東北東北東北東北東北東北東北東北東北東北東北東北東北東北東北東北東北東北東	_		_	_		15
2.2 生成 3 9 ケイ素 2.3 ヘリウム 3 9.1 ケイ素 2.1 大イ素 2.4 ネオン 3 9.2 二酸化ケイ素 2.2 酸化ケイ素 2.5 アルゴン 3 9.2 二酸化ケイ素 3 ハロゲン 4 第Ⅱ部 典型金属 3.1 単体 4 10 アルカリ金属 3.2 ハロゲン化線 6 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸・素ナトリウム・炭酸・素ナトリウム・塩のカルシウム(指石灰) 4 酸素 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム(指石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム・11.6 硫酸 カルシウム・11.6 元素 5.1 硫黄 9 12 12 族元素 5.2 硫化成黄(・亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 5.5 チオ硫酸ナトリウム(ハイボ) 11 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(I)・塩化水銀(II)・塩化水銀(II)・ 5.6 重金属の硫化物 12 13 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・カ酸化アルミニウム・カルシウム・12.0 株式・カルシウム・12.0 株式・カルシウム・12			•			15
2.3 ヘリウム 3 9 ケイ素 2.4 ネオン 3 9.2 二酸化ケイ素 2.5 アルゴン 3 9.2 二酸化ケイ素 3 ハロゲン 4 第 II 部 典型金属 3.1 単体 4 4 3.2 ハロゲン化水素 5 10 アルカリ金属 3.3 ハロゲン化水素 5 10 アルカリ金属 3.3 ハロゲン化水素 5 10 アルカリ金属 3.3 ハロゲン化水素 6 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナリウム (苛性ソーダ) 1 3.5 塩素酸カリウム 6 10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・人株本チトリウム・人・海の大の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の				8.3	一酸化灰素	16
2.4 ネオン 3 9.2 二酸化ケイ素 2.5 アルゴン 3 9.2 二酸化ケイ素 3 ハロゲン 4 第川部 典型金属 3.1 単体 4 10 アルカリ金属 3.3 ハロゲン化銀 6 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム(苛性ソーダ) 3.5 塩素酸カリウム 6 10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム 4 酸素 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム(生石灰) 4.3 オゾン 7 11.3 水酸化カルシウム(消石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 5 硫黄 9 11.6 硫酸カルシウム 5.1 硫黄 9 12 12 旋元素 5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 12.1 単体 5.5 チオ硫酸ナトリウム(ハイボ) 11 12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛 12.1 単体 5.5 チオ硫酸ナトリウム(ハイボ) 11 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II)・塩化水銀(II)・塩化水銀(II)・塩化水銀(II)・塩化水銀(II)・塩化水銀(アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸・カルミニウム・水酸・カルミニウム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カル・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カルミーカム・カ				9	ケイ素	17
2.5 アルゴン 3 9.2 二酸化ケイ素 3 ハロゲン 4 第 日部 典型金属 3.1 単体 4 3.1 単体 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・炭酸素 7 11.1 単体 4.1 酸素原子 7 11.2 酸化カルシウム(培石灰) 4.3 オゾン 7 11.3 水酸化カルシウム(清石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム・11.6 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 5 硫黄 9 12 12 族元素 5.1 硫黄 9 12 12 族元素 5.3 二酸化硫素 9 12 12 族元素 5.4 硫酸 11 12.2 酸化亜鉛(亜鉛等・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化亜鉛・水酸化水銀(II)・塩化水銀(II)・塩化水銀(II)・塩化水銀(II)・塩化水銀・イン・水酸化水酸・大水酸化・水酸化・水酸化・水酸化・水酸化・水酸化・水酸化・水酸化・水酸化・水酸化・			_	9.1	ケイ素	17
3 ハロゲン 4 第 II 部 典型金属 3.1 単体 4 3.2 ハロゲン化水素 5 10 アルカリ金属 3.3 ハロゲン化銀 6 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム(苛性ソーダ) 3.5 塩素酸カリウム 6 10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・ 4 酸素 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム(连石灰) 4.3 オゾン 7 11.3 水酸化カルシウム(消石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 5 硫黄 9 11.6 硫酸カルシウム 5.1 硫黄 9 5.2 硫化水素 9 12 接元素 5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 5.4 硫酸 11 12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛 5.5 チオ硫酸ナトリウム(ハイボ) 11 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 5.6 重金属の硫化物 12 13 アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・			-	9.2	二酸化ケイ素	17
3.1 単体 4 3.2 ハロゲン化水素 5 10 アルカリ金属 3.3 ハロゲン化銀 6 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・ 3.5 塩素酸カリウム 6 10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・ 4 酸素 7 11 2 族元素 4.1 酸素原子 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム (生石灰) 4.3 オゾン 7 11.3 水酸化カルシウム (洋石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム (石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 5 硫黄 9 11.7 硫酸メリウム 5.1 硫黄 9 5.2 硫化水素 9 12 放売素 5.3 二酸化硫黄 (亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 5.4 硫酸 11 12.2 酸化亜鉛 (亜鉛華)・水酸化亜鉛 5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ) 11 12.3 塩化水銀 (I)・塩化水銀 (II) 5.6 重金属の硫化物 12 13 アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・	2.5	アルゴン	3			
3.1 単体 4 3.2 ハロゲン化水素 5 3.3 ハロゲン化銀 6 3.4 次亜塩素酸塩 6 3.5 塩素酸カリウム 6 4 酸素 7 4.1 酸素原子 7 4.2 酸素 7 4.3 オゾン 7 4.4 酸化物 8 4.5 水 8 5 硫黄 9 5.1 硫黄 9 5.2 硫化水素 9 5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス) 10 5.4 硫酸 11 5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ) 11 5.6 重金属の硫化物 12 6 窒素 12 13.1 アルミニウム 6.1 窒素 12 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・カー	3	ハロゲン	4	第Ⅱ部	。 典型金属	19
3.3 ハロゲン化銀 6 10.1 単体 3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム(苛性ソーダ) 3.5 塩素酸カリウム 6 10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム 4 酸素 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム(生石灰) 4.3 オゾン 7 11.3 水酸化カルシウム(酒灰の 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 5 硫黄 9 11.7 硫酸メリウム 5.1 硫黄 9 11.7 硫酸パリウム 5.1 硫黄 9 12 12 族元素 5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 5.4 硫酸 11 12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛 5.5 チオ硫酸ナトリウム(ハイポ) 11 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 5.6 重金属の硫化物 12 13 アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化フルミ	3.1	単体	4	210 11 11		
3.4 次亜塩素酸塩 6 10.2 水酸化ナトリウム(苛性ソーダ) 3.5 塩素酸カリウム 6 10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・ 4 酸素 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム(生石灰) 4.3 オゾン 7 11.3 水酸化カルシウム(消石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 5 硫黄 9 11.7 硫酸カルシウム 5.1 硫黄 9 11.7 硫酸パリウム 5.2 硫化水素 9 12 技元素 5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 5.4 硫酸 11 12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛 5.5 チオ硫酸ナトリウム(ハイボ) 11 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 5.6 重金属の硫化物 12 13 アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム 水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・	3.2	ハロゲン化水素	5	10	アルカリ金属	19
10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム 11.1 単体 11.2 酸化カルシウム (岩石灰) 11.3 水酸化カルシウム (消石灰) 11.4 炭酸カルシウム (消石灰) 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 11.6 硫酸カルシウム 11.7 硫酸パリウム 11.8 単体 12.1 単体 12.1 単体 12.2 酸化亜鉛 (亜鉛華)・水酸化亜鉛 12.1 単体 12.3 塩化水銀 (I)・塩化水銀 (II) 12.3 塩化水銀 (I)・塩化水銀 (II) 13.1 アルミニウム 13.1 アルミニウム 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸・14.1 14.1	3.3	ハロゲン化銀	6	10.1	単体	19
4 酸素 7 11 2 族元素 4.1 酸素 7 11.1 単体 4.2 酸素 7 11.2 酸化カルシウム (生石灰) 4.3 オゾン 7 11.3 水酸化カルシウム (消石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム (石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 5 硫黄 9 11.7 硫酸バリウム 5.1 硫黄 9 12 12 族元素 5.3 二酸化硫黄 (亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 5.4 硫酸 11 12.2 酸化亜鉛 (亜鉛華)・水酸化亜鉛 5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ) 11 12.3 塩化水銀 (I)・塩化水銀 (Ⅱ) 5.6 重金属の硫化物 12 13 アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・	3.4		6	10.2	水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)	19
4.1 酸素原子 7 11.1 単体 11.2 酸化カルシウム(生石灰) 4.3 オゾン 7 11.3 水酸化カルシウム(消石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(消石灰) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 11.6 硫酸カルシウム 11.7 硫酸バリウム 12 族元素 12.1 単体 12.1 単体 12.1 単体 12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 13.1 アルミニウム 13.1 アルミニウム 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・ 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・ 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・ 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・ 13.2 酸化アルミニウム・ 13.2 酸化アルミニウム・ 13.2 酸化アルミニウム・ 13.2 酸化アルミニウム・ 13.2 酸化アルミニウム・ 13.2 酸化 13.2 酸化アルミニウム・ 13.2 酸化アルミニウム・ 13.2 酸化 13.2 酸化アルミニウム・ 13.2 酸化 13.2 数	3.5	塩素酸カリウム	6	10.3	炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム	20
4.2 酸素	4	酸素	7	11	2 族元素	22
4.3 オゾン 7 11.3 水酸化カルシウム(消石灰) 4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(石灰石) 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 11.6 硫酸カルシウム 11.6 硫酸カルシウム 11.7 硫酸バリウム 11.7 硫酸バリウム 11.7 硫酸バリウム 11.7 硫酸バリウム 11.7 硫酸 12.1 単体 12.1 単体 12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 13.1 アルミニウム 2 13.1 アルミニウム 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム 13.2 酸化アルミニウム 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム 14.5 数元 14.5	4.1	酸素原子	7	11.1	単体	22
4.4 酸化物 8 11.4 炭酸カルシウム(石灰石) 4.5 水 8 11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム 5 硫黄 9 11.6 硫酸カルシウム 5.1 硫黄 9 5.2 硫化水素 9 5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 5.4 硫酸 11 12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛 5.5 チオ硫酸ナトリウム(ハイポ) 11 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 5.6 重金属の硫化物 12 13 アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・	4.2	酸素	7	11.2	酸化カルシウム(生石灰)	
4.5 水	4.3	オゾン	7	11.3	水酸化カルシウム(消石灰)	23
5 硫黄 9 11.6 硫酸カルシウム 11.7 硫酸バリウム 11.7 硫酸バリウム 11.7 硫酸バリウム 11.7 硫酸バリウム 12.7 金酸バリウム 12.7 本元素 12.7 12.7 本元素 12.7 本元素 12.7 本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、本ので、	4.4	酸化物	8	11.4	炭酸カルシウム(石灰石)	23
5 硫黄 9 11.7 硫酸バリウム 5.1 硫黄 9 12 12 族元素 5.2 硫化水素 9 12 12 族元素 5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 5.4 硫酸 11 12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛 5.5 チオ硫酸ナトリウム(ハイポ) 11 12.3 塩化水銀(I)・塩化水銀(II) 5.6 重金属の硫化物 12 13 アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム	4.5	水	8	11.5	塩化マグネシウム・塩化カルシウム	23
5.1 硫黄 9 5.2 硫化水素 9 5.3 二酸化硫黄 (亜硫酸ガス) 10 5.4 硫酸 11 5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ) 11 5.6 重金属の硫化物 12 12.3 塩化水銀 (I)・塩化水銀 (II) 13 アルミニウム 6 窒素 12 6.1 窒素 12 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・	_	広 井	0	11.6	硫酸カルシウム	24
5.2 硫化水素 9 12 12 族元素 5.3 二酸化硫黄 (亜硫酸ガス) 10 12.1 単体 12.2 酸化亜鉛 (亜鉛華)・水酸化亜鉛 5.4 硫酸 11 12.2 酸化亜鉛 (亜鉛華)・水酸化亜鉛 12 5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ) 11 12.3 塩化水銀 (I)・塩化水銀 (II) 12 5.6 重金属の硫化物 12 13 アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム				11.7	硫酸バリウム	24
5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス) 10 12.1 単体				12	12 旅元麦	24
5.4 硫酸 11 12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛 ・水酸化亜鉛 ・水酸化亜鉛 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						24
5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ) 11 12.3 塩化水銀 (I)・塩化水銀 (II) 1 5.6 重金属の硫化物 12 13 アルミニウム 6 窒素 12 13.1 アルミニウム アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム			-			25
5.6 重金属の硫化物 12 6 窒素 12 6.1 窒素 12 13.1 アルミニウム 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム						25
6 窒素 12 13.1 アルミニウム 6.1 窒素 12 13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				12.0		
6.1 窒素	0.0			13	アルミニウム	26
	6	窒素	12	13.1	アルミニウム	26
6.2 アンモニア	6.1	窒素	12	13.2	酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム	26
	6.2	アンモニア	12	13.3	ミョウバン・焼きミョウバン	27

14	スズ・鉛	28
14.1	単体	28
14.2	塩化スズ(II)	28
14.3	酸化鉛 (IV)	29
14.4	鉛の難溶性化合物	29
第Ⅲ部	邵 遷移元素	30
15	性質	30
16	鉄・コバルト・ニッケル	30
16.1	鉄	30
16.2	硫酸鉄(II)7水和物	31
16.3	塩化鉄(III)6 水和物	32
16.4	鉄イオンの反応	32
16.5	塩化コバルト(Ⅱ)	32
16.6	硫酸ニッケル(Ⅱ)	32
17	銅	33
17.1	銅	33
17.2	硫酸銅(II)5 水和物	33
17.3	銅(Ⅱ)イオンの反応	34
17.4	銅の合金	34
18	銀	34
18.1	銀	34
18.2		34
18.3	難溶性化合物の溶解性	
19	クロム・マンガン	35
19.1	単体	35
19.2	クロム酸カリウム・二クロム酸カリウム	35
19.3	過マンガン酸カリウム	35
19.4	マンガンの安定な酸化数	
笙 \/ 兽	邵 APPENDIX	36
713 . • •		
A	気体の乾燥剤	36
В	水の硬度	36
С	錯イオンの命名法	36
D	金属イオンの難容性化合物	37
E	金属イオンの系統分離	39

解答編

第I部

非金属元素

1 水素

1.1 性質

- (1)無色(2)無臭の(3)気体
- 最も4軽い
- 水に溶け(5)にくい

1.2 同位体

¹H 99% 以上 ²H (**6D**)0.015% ³H (**7T**) 微量

1.3 製法

- ナフサの電気分解 工業的製法
- 8赤熱したコークスに 9水蒸気を吹き付ける工業的製法

$$C + H_2O \longrightarrow H_2 + CO$$

- 10水(11水酸化ナトリウム水溶液)の電気分解 $2 H_2 O \longrightarrow 2 H_2 + O_2$
- 12 イオン化傾向が 13 H₂ より大きい 金属と希薄強酸

$$\mathfrak{P}$$
 Zn + 2 HCl \longrightarrow ZnCl₂ + H₂ \uparrow

• 水素化ナトリウムと水 $NaH + H_2O \longrightarrow NaOH + H_2$

1.4 反応

• 水素と酸素 (爆鳴気の燃焼)

$$2 H_2 + O_2 \longrightarrow H_2O$$

加熱した酸化銅(Ⅱ)と水素
 CuO + H₂ → Cu + H₂O

2 貴ガス

(14)He, (15)Ne, (16)Ar, (17)Kr, Xe, Rn

2.1 性質

- 18無色19無臭
- 第 18 族元素であり、電子配置がオクテットを満たす ため反応性が低い
- イオン化エネルギーが極めて大きい
- 電子親和力が (20)極めて小さい
- 電気陰性度が[21]定義されない

2.2 牛成

 40 K の電子捕獲

 $^{40}\mathrm{K} + \mathrm{e}^{-} \longrightarrow ^{40}\mathrm{Ar}$

2.3 ヘリウム

化学式:He 浮揚ガス

2.4 ネオン

化学式:Ne ネオンサイン

2.5 アルゴン

化学式:Ar N_2 , O_2 に次いで 3 番目に空気中での存在量が 多い(約 1%)。

3 ハロゲン

3.1 単体

3.1.1 性質

化学式	F_2	Cl_2	Br_2	${ m I}_2$
分子量	小			大
分子間力	弱			
反応性	強			弱
沸点・融点	低			
常温での状態	22 気体	23 気体	24)液体	25)固体
色	26 淡黄色	(27) <mark>黄緑</mark> 色	28 赤褐色	29]黒紫色
特徴	30 特異臭	31)刺激臭	揮発性	(<u>32</u>)昇華性
H ₂ との反応	33 冷暗所 でも	34 <mark>常温</mark> でも 35 <mark>光</mark> で	(36)加熱 して	高温で平衡状態
112 C V)/X//C	爆発的に反応	爆発的に反応	37 <u>触媒</u> により反応	38)加熱して 39)触媒により一部反応
水との反応	水を酸化して酸素と	(41)一部とけて反応	(42)一部とけて反応	43 反応しない
/1 C 0/X/ni	<u>40激しく</u> 反応		(42) DIPCY) CIXIII	(44)Klaq には可溶
用途	保存が困難	(45)CIO- による	C=C ❖	47]ョウ素デンプン 反応で
/11/55	Kr や Xe と反応	[46] <mark>殺菌・漂白</mark> 作用	C≡C の検出	48)青紫色

3.1.2 製法

 ● フッ化水素ナトリウム KHF₂ のフッ化水素 HF 溶液 の電気分解 工業的製法

 $KHF_2 \longrightarrow KF + HF$

- $\boxed{49}$ 塩化ナトリウム水溶液 の電気分解 塩素 工業的製法 $2\,\mathrm{NaCl} + 2\,\mathrm{H}_2\mathrm{O} \longrightarrow \mathrm{Cl}_2 + \mathrm{H}_2 + 2\,\mathrm{NaOH}$
- $\boxed{50$ 酸化マンガン (IV) に $\boxed{51$ 濃塩酸 を加えて加熱 塩素 $\mathrm{MnO_2} + 4\,\mathrm{HCl} \xrightarrow{\Lambda} \mathrm{MnCl_2} + \mathrm{Cl_2} \uparrow + 2\,\mathrm{H_2O}$
- 52高度さらし粉と 53塩酸 塩素 $Ca(ClO)_2 \cdot 2 H_2O + 4 HCl \longrightarrow CaCl_2 + 2 Cl_2 \uparrow + 4 H_2O$
- 54 さらし粉 と 55 塩酸 塩素 $\operatorname{CaCl}(\operatorname{ClO}) \cdot \operatorname{H}_2\operatorname{O} + 2\operatorname{HCl} \longrightarrow \operatorname{CaCl}_2 + \operatorname{Cl}_2\uparrow + 2\operatorname{H}_2\operatorname{O}$
- 臭化マグネシウムと塩素 Q素 $MgBr_2 + Cl_2 \longrightarrow MgCl_2 + Br_2$
- ヨウ化カリウムと塩素 ョウ素 $2 \, \mathrm{KI} + \mathrm{Cl}_2 \longrightarrow 2 \, \mathrm{KCl} + \mathrm{I}_2$

3.1.3 反応

- フッ素と水素 $H_2+F_2\stackrel{\mathring{\pi}_{\stackrel{}{=}}\sigma}{\longrightarrow} 2\,HF$
- 塩素と水素
 H₂ + Cl₂ ^{光を当てると爆発的に反応}→ 2 HCl
- 臭素と水素 $H_2 + Br_2 \xrightarrow{\overline{Ala} \circ \overline{Dla}} 2 HBr$
- フッ素と水 $2F_2 + 2H_2O \longrightarrow 4HF + O_2$
- 塩素と水 Cl₂ + H₂O ⇒ HCl + HClO
- 臭素と水
 Br₂ + H₂O ⇒ HBr + HBrO
- ullet ヨウ素の固体がヨウ化物イオン存在下で三ヨウ化物イオンを形成して溶解する反応 $I_2 + I^- \longrightarrow I_3^-$

3.2 ハロゲン化水素 3 ハロゲン

3.1.4 塩素発生実験の装置

 $\mathrm{MnO_2} + 4\,\mathrm{HCl} \xrightarrow{\Delta} \mathrm{MnCl_2} + \mathrm{Cl_2}\uparrow + 2\,\mathrm{H_2O}$ $\mathrm{Cl_2},\mathrm{HCl},\mathrm{H_2O}$ \downarrow 56 水 に通す (HCl の除去) $\mathrm{Cl_2},\mathrm{H_2O}$ \downarrow 57 濃硫酸 に通す (H₂O の除去) $\mathrm{Cl_2}$

3.1.5 塩素のオキソ酸

オキソ酸・・・ 58 酸素を含む酸性物質

+ VII	59 HClO₄	60 過塩素酸	O H-O-Cl-O O
			O
+ V	61 HCIO ₃	62 塩素酸	H - O - Cl - O
+ III	63 HCIO ₂	64	H - O - Cl - O
+ I	65 HCIO	66)次亜塩素酸	H - O - Cl

3.2 ハロゲン化水素

3.2.1 性質

化学式	HF	HCl	HCl HBr					
色・臭い		67 <u>無</u> 色 68] 刺激臭						
沸点	20°C	−85°C	−67°C	−35°C				
水との反応	(69)よく溶ける							
水溶液	[70]フッ化水素酸	71 塩酸	72 臭化水素酸	73 ヨウ化水素酸				
(強弱)	[74]弱酸	₹ ≪ 75 強酸 < 7	6)強酸 < [77]	強酸				
用途	78 <mark>ガラス</mark> と反応	79アンモニア の検出	半導体加工	インジウムスズ				
加处	⇒ ポリエチレン瓶	各種工業	一一一一一一	酸化物の加工				

3.2.2 製法

- 80 ホタル石 に 81 濃硫酸 を加えて加熱(82 弱酸遊離) フッ化水素 $CaF_2 + H_2SO_4 \longrightarrow CaSO_4 + 2 HF \uparrow$
- 83水素 と 84塩素 塩化水素 工業的製法 $H_2+Cl_2\longrightarrow 2\,HCl\,\uparrow$
- 85 塩化ナトリウム に 86 濃硫酸 を加えて加熱 塩化水素 (87 弱酸・88 揮発性 酸の追い出し) NaCl + H_2SO_4 $\xrightarrow{\Lambda}$ NaHSO $_4$ + HCl \uparrow

3.2.3 反応

- 気体のフッ化水素がガラスを侵食する反応 $\mathrm{SiO}_2 + 4\,\mathrm{HF}(\mathrm{g}) \longrightarrow \mathrm{SiF}_4 \uparrow + 2\,\mathrm{H}_2\mathrm{O}$
- フッ化水素酸(水溶液)がガラスを侵食する反応 ${
 m SiO_2+6\,HF(aq)}\longrightarrow {
 m H_2SiF_6}\uparrow + 2\,{
 m H_2O}$

3.3 ハロゲン化銀 3 ハロゲン

 ● <u>89塩化水素</u>による <u>90アンモニア</u>の検出 HCl + NH₃ → NH₄Cl

3.3 ハロゲン化銀

3.3.1 性質

化学式	AgF	AgCl	AgBr	AgI
固体の色	91)黄褐色	92 🚊 色	93 淡黄色	94黄色
水との反応	95よく溶ける	96)ほとんど溶けない		
光との反応	97 感光	感光性 (→ 98 Ag)		

3.3.2 製法

• 酸化銀(I)にフッ化水素酸を加えて蒸発圧縮 $Ag_2O+2HF\longrightarrow 2\,AgF+H_2O$

• ハロゲン化水素イオンを含む水溶液と $\boxed{99}$ 硝酸銀水溶液 $\mathbf{Ag^+} + \mathbf{X^-} \longrightarrow \mathbf{AgX} \downarrow$

3.4 次亜塩素酸塩

3.4.1 性質

[100]酸化剤として反応([101]殺菌・[102]漂白作用) $ClO^- + 2H^+ + 2e^- \longrightarrow Cl^- + H_2O$

3.4.2 製法

- ・ 水酸化ナトリウム水溶液と塩素2 NaOH + Cl₂ → NaCl + NaClO + H₂O
- 水酸化カルシウムと塩素 ${\rm Ca(OH)_2 + Cl_2 \longrightarrow CaCl(ClO) \cdot H_2O}$

3.5 塩素酸カリウム

化学式: [103]KCIO₃

3.5.1 性質

[104]酸素 の生成([105]二酸化マンガン を触媒に加熱) $2 \, \mathrm{KClO}_3 \, \frac{\mathrm{MnO}_2}{\Delta} \, 2 \, \mathrm{KCl} + 3 \, \mathrm{O}_2 \, \uparrow$

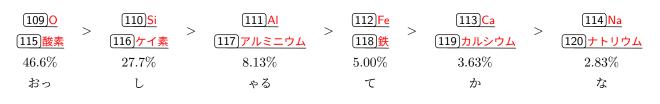
4 酸素

4.1 酸素原子

同106位体:酸素 (O_2) 、107オゾン (O_3)

地球の地殻に 108 最も多く存在

- 地球の地殻における元素の存在率 -



4.2 酸素

化学式:O2

4.2.1 性質

- [121]無色[122]無臭の[123]気体
- 沸点 −183°C

4.2.2 製法

- [124]液体空気の分留 [工業的製法]
- $\boxed{125}$ 水 ($\boxed{126}$ 水酸化ナトリウム水溶液) の $\boxed{127}$ 電気分解 $2\,\mathrm{H}_2\mathrm{O} \longrightarrow 2\,\mathrm{H}_2\uparrow + \mathrm{O}_2\uparrow$
- 128 過酸化水素水 (129 オキシドール) の分解 $2 \operatorname{H}_2\operatorname{O}_2 \xrightarrow{\operatorname{MnO}_2} \operatorname{O}_2 \uparrow + 2 \operatorname{H}_2\operatorname{O}$
- 130 塩素酸カリウム の熱分解 $2 \text{ KClO}_3 \xrightarrow{\text{MnO}_2} 2 \text{ KCl} + 3 \text{ O}_2 \uparrow$

4.2.3 反応

[131]酸化剤としての反応

$$O_2 + 4 H^+ + 4 e^- \longrightarrow 2 H_2 O$$

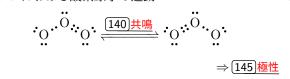
4.3 オゾン

化学式: [132]O₃

4.3.1 性質

- (133)ニンニク 臭((134)特異 臭)を持つ(135)淡青色の(136)気体(常温)
- 水に[137]少し溶ける
- [138] <mark>殺菌・[139] 脱臭</mark>作用

オゾンにおける酸素原子の運動 -



4.3.2 製法

酸素中で $\overline{146}$ 無声放電 \angle 強い $\overline{147}$ 紫外線を当てる $3\,{
m O}_2\longrightarrow 2\,{
m O}_3$

4.3.3 反応

- $\boxed{148$ 酸化</u>剤としての反応 $O_3 + 2 \, \mathrm{H}^+ + 2 \, \mathrm{e}^- \longrightarrow O_2 + \mathrm{H}_2\mathrm{O}$
- 湿らせた (149) ヨウ化カリウムでんぷん紙を (150) 青色に変色

$$O_3 + 2 KI + H_2O \longrightarrow I_2 + O_2 + 2 KOH$$

4.4 酸化物 4 酸素

4.4 酸化物

	塩基性酸化物	両性酸化物	酸性酸化物
元素	[151]陽性の大きい金属元素	[152]陽性の小さい金属元素	153]非金属元素
水との反応	[154] 塩基性	[155]ほとんど溶けない	156酸性 (157オキソ酸)
中和	[158]酸と反応	[159]酸・塩基 と反応	[160] <u>塩基</u> と反応

両性酸化物 · · · (161)アルミニウム (162)AI) , (163)亜鉛 (164)Zn) , (165)スズ (166)Sn) , (167)鉛 (168)Pb)*1

- $\bigcirc M$ $CO_2 + H_2O \longrightarrow H_2CO_3$
- $\bigcirc SO_2 + H_2O \longrightarrow H_2SO_3$
- $\bigcirc 3 \text{ NO}_2 + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow 2 \text{ HNO}_3 + \text{NO}_3$

4.4.1 反応

酸化銅(Ⅱ)と塩化水素

 $CuO + 2HCl \longrightarrow CuCl_2 + H_2O$

• 酸化アルミニウムと硫酸

 $Al_2O_3 + 3H_2SO_4 \longrightarrow Al_2(SO_4)_3 + 3H_2O$

4.5 水

4.5.1 性質

- 169 極性分子
- 周りの4つの分子と 170 水素結合
- 異常に 171 高い 沸点
- 172 隙間の多い結晶構造(密度:固体 173 <液体)
- 特異な [174] 融解曲線

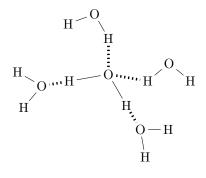
4.5.2 反応

• 酸化カルシウムと水

 $CaO + H_2O \longrightarrow Ca(OH)_2$

• 二酸化窒素と水

 $3\,\mathrm{NO_2} + \mathrm{H_2O} \longrightarrow 2\,\mathrm{HNO_3} + \mathrm{NO}$



^{*1} 覚え方:ああすんなり

5 硫黄

5.1 硫黄

5.1.1 性質

名称	〔175〕 <mark>斜方</mark> 硫黄	176 単斜 硫黄	〔177〕 <mark>ゴム状</mark> 硫黄
化学式	178 S ₈	179 S ₈	(180)S _x
色	[181] <u>黄</u> 色	<u>182)黄</u> 色	〔183〕 <u>黄</u> 色
構造	(184) <mark>塊状</mark> 結晶	185 針状 結晶	186 <mark>不定形</mark> 固体
融点	113°C	119°C	不定
構造	S S	S S S S S S S S S S S S S S S S S S	
CS ₂ との反応	[187] <mark>溶ける</mark>	[188] <mark>溶ける</mark>	[189]溶けない

CS₂··· 無色・芳香性・揮発性 ⇒ 190 無極性 触媒

5.1.2 反応

● 高温で多くの金属(Au, Pt を除く)と反応

例Fe Fe+S
$$\longrightarrow$$
 FeS

● 空気中で 191 青色の炎を上げて燃焼

$$S + O_2 \longrightarrow SO_2$$

5.2 硫化水素

化学式: [192]H₂S

5.2.1 性質

- [193]無色[194]腐卵臭
- 195 弱酸性

$$\begin{cases} \boxed{196} \text{H}_2\text{S} &\Longrightarrow \text{H}^+ + \text{HS}^- \\ \boxed{197} \text{HS}^- &\Longrightarrow \text{H}^+ + \text{S}^{2-} \end{cases} \qquad K_1 = 9.5 \times 10^{-8} \text{ mol/L}$$

● 198 還元 剤としての反応

$$H_2S \longrightarrow S + 2H^+ + 2e^-$$

重金属イオン M²⁺ と 199 <u>難容性の塩</u>を生成

$$M_2^+ + S^{2-} \Longrightarrow MS \downarrow$$

5.2.2 製法

● 硫化鉄(Ⅱ)と希塩酸

$$FeS + 2 HCl \longrightarrow FeCl_2 + H_2S \uparrow$$

● 硫化鉄(Ⅱ)と希硫酸

$$\mathrm{FeS} + \mathrm{H_2SO_4} \longrightarrow \mathrm{FeSO_4} + \mathrm{H_2S} \!\uparrow$$

5.2.3 反応

• 硫化水素とヨウ素

$$H_2S+I_2 \longrightarrow S+2\,HI$$

酢酸鉛(Ⅱ)水溶液と硫化水素(200)H₂Sの検出)
 (CH₃COO)₂Pb + H₂S → 2 CH₃COOH + PbS↓

5.3 二酸化硫黄(亜硫酸ガス)

化学式: [201] SO₂ 電子式: : O: S:: O

5.3.1 性質

- [202]無色、[203]刺激臭の[204]気体
- 水に 205 溶けやすい
- [206]弱酸性

 $(207)SO_2 + H_2O \Longrightarrow H^+ + HSO_3^ K_1 = 1.4 \times 10^{-2} \text{ mol/L}$

● [208]還元剤([209]漂白作用)

 $SO_2 + 2 H_2O \longrightarrow SO_4^{2-} + 4 H^+ + 2 e^-$

• ②10酸化剤(②11 H_2S などの強い還元剤に対して) $SO_2 + 4H^+ + 4e^- \longrightarrow S + 2H_2O$

5.3.2 製法

● 硫黄や硫化物の 212 燃焼 工業的製法

$$2 H_2 S + 3 O_2 \longrightarrow 2 SO_2 + 2 H_2 O$$

● 213 亜硫酸ナトリウムと希硫酸

$$Na_2SO_3 + H_2SO_4 \xrightarrow{\Delta} Na_2SO_4 + SO_2 \uparrow + H_2O$$

● [214]銅と[215]熱濃硫酸

$$\mathrm{Cu} + 2\,\mathrm{H}_2\mathrm{SO}_4 \longrightarrow \mathrm{CuSO}_4 + \mathrm{SO}_2 \,\!\uparrow + 2\,\mathrm{H}_2\mathrm{O}$$

5.3.3 反応

• 二酸化硫黄の水への溶解

$$SO_2 + H_2O \longrightarrow H_2SO_3$$

• 二酸化硫黄と硫化水素

$$SO_2 + 2H_2S \longrightarrow 3S + 2H_2O$$

• 硫酸酸性で過マンガン酸カリウムと二酸化硫黄

$$2\,\mathrm{KMnO_4} + 5\,\mathrm{SO_2} + 2\,\mathrm{H_2O} \longrightarrow 2\,\mathrm{MnSO_4} + 2\,\mathrm{H_2SO_4} + \mathrm{K_2SO_4}$$

5.4 硫酸 5 硫黄

5.4 硫酸

5.4.1 性質

- 216無色(217無臭の(218)液体
- 水に 219 非常によく溶ける
- 溶解熱が (220) 非常に大きい
- [221]水に濃硫酸を加えて希釈
- (222)不揮発性で密度が(223)大きく、(224)粘度が大きい 濃硫酸
- [225] 吸湿性・[226] 脱水作用 濃硫酸
- 227 強酸性 希硫酸

 $\left(\begin{array}{ccc} (228) \text{H}_2 \text{SO}_4 & \Longrightarrow \text{H}^+ + \text{HSO}_4^- & K_1 > 10^8 \text{mol/L} \end{array}\right)$

- (229)弱酸性 濃硫酸 (230)水が少なく、(231)H₃O⁺の 濃度が小さい)
- [232]酸化剤として働く 熱濃硫酸

 $(233)H_2SO_4 + 2H^+ + 2e^- \longrightarrow SO_2 + 2H_2O$

● [234]アルカリ性土類金属 ([235]Ca, [236]Be)、[237]Pb と難容性の塩を生成 **希硫酸**

5.4.2 製法

238 接触法 工業的製法

1. 黄鉄鉱 FeS₂ の燃焼

$$4 \operatorname{FeS}_2 + 11 \operatorname{O}_2 \longrightarrow 2 \operatorname{Fe}_2 \operatorname{O}_3 + 8 \operatorname{SO}_2$$

$$(S + \operatorname{O}_2 \longrightarrow \operatorname{SO}_2)$$

- 2. 239酸化バナジウム 触媒で酸化 $2SO_2 + O_2 \xrightarrow{V_2O_5} 2SO_3$
- 3. [240] <u>濃硫酸</u> に吸収させて [241] 発煙硫酸 とした後、 希硫酸を加えて希釈

$$SO_3 + H_2O \longrightarrow H_2SO_4$$

5.4.3 反応

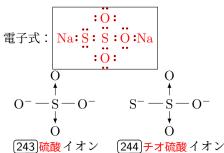
- 硝酸カリウムに濃硫酸を加えて加熱 ${
 m KNO_3 + H_2SO_4 \longrightarrow HNO_3 + KHSO_4}$
- スクロースと濃硫酸 ${\rm C_{12}H_{22}O_{11}} \xrightarrow{\rm H_{2}SO_{4}} 12\,{\rm C} + 11\,{\rm H_{2}O}$
- 水酸化ナトリウムと希硫酸 ${\rm H_2SO_4 + 2\,NaOH \longrightarrow Na_2SO_4 + 2\,H_2O}$
- 銅と熱濃硫酸
 Cu + 2 H₂SO₄ → CuSO₄ + SO₂↑ + 2 H₂O
- 銀と熱濃硫酸

 $2 \operatorname{Ag} + 2 \operatorname{H}_2 \operatorname{SO}_4 \longrightarrow \operatorname{Ag}_2 \operatorname{SO}_4 + \operatorname{SO}_2 + 2 \operatorname{H}_2 \operatorname{O}$

塩化バリウム水溶液と希硫酸
 BaCl₂ + H₂SO₄ →→ BaSO₄ ↓ + 2 HCl

5.5 チオ硫酸ナトリウム (ハイポ)

化学式: [242]Na₂S₂O₃



5.5.1 性質

- 無色透明の結晶(5水和物)で、水に溶けやすい。
- 245 還元剤として反応

例水道水の脱塩素剤 (カルキ抜き)

$$(246)2 S_2 O_3^{2-} \longrightarrow S_4 O_6 + 2 e^-$$

5.5.2 製法

亜硫酸ナトリウム水溶液に硫黄を加えて加熱 $n \operatorname{Na_2SO_3} + \operatorname{S}_n \longrightarrow n \operatorname{Na_2S_2O_3}$

5.5.3 反応

ヨウ素とチオ硫酸ナトリウム

 $I_2 + 2 \operatorname{Na_2S_2O_3} \longrightarrow 2 \operatorname{NaI} + \operatorname{Na_2S_4O_6}$

5.6 重金属の硫化物

酸性でも沈澱(全液性で沈澱)				中性	・塩基性で沈	ご澱(酸性でん	は溶解)		
Ag_2S	HgS	CuS	PbS	SnS	CdS	NiS	FeS	ZnS	MnS
247 黑色	248]黑色	249 黑色	250黒色	251 褐色	252]黒色	253]黒色	<u>[254]</u> 色	255) 白色	256)淡赤色

257 低

イオン化傾向

[258]高

[259]極小 塩の溶解度積 (K_{sp}) [260]小

6 窒素

6.1 窒素

化学式:N₂

6.1.1 性質

- <u>261</u>無色<u>262</u>無臭の<u>263</u>気体
- 空気の 78% を占める
- ・ 水に溶け(264)にくい((265)無極性分子)
- 常温で (266) **不活性** (食品などの (267) 酸化防止)
- 高エネルギー状態([268]高温・[269]放電)では反応

6.1.2 製法

- 270 液体窒素の分留 工業的製法
- [271] 亜硝酸アンモニウムの[272] 熱分解 $NH_4NO_2 \longrightarrow N_2 + 2H_2O$

6.1.3 反応

• 窒素と酸素

$$N_2 + 2 O_2 \longrightarrow 2 NO_2$$
 $\begin{cases} N_2 + O_2 \longrightarrow 2 NO \\ 2 NO + O_2 \longrightarrow 2 NO_2 \end{cases}$

• 窒素とマグネシウム $3 \operatorname{Mg} + \operatorname{N}_2 \longrightarrow \operatorname{Mg}_3 \operatorname{N}_2$

6.2 アンモニア

化学式: [273]NH₃

6.2.1 性質

- [274]無色[275]刺激臭の[276]気体
- (277)水素結合
- 水に278 非常によく溶ける (279 上方 置換)
- [280] 塩基性 ($281)NH_3 + H_2O \Longrightarrow NH_4^+ + OH^ K_1 = 1.7 \times 10^{-5} \text{ mol/L}$
- 282 塩素の検出
- 高温・高圧で二酸化炭素と反応して、 283 尿素を生成

6.2.2 製法

284 ハーバーボッシュ法 工業的製法 [285]低温[286]高圧で、[287]四酸化三鉄([288]Fe₃O₄) 触媒

 $N_2 + 3 H_2 \Longrightarrow 2 NH_3$

• [289]塩化アンモニウムと [290]水酸化カルシウムを混ぜ

 $2 \text{ NH}_4 \text{Cl} + \text{Ca}(\text{OH})_2 \longrightarrow 2 \text{ NH}_3 \uparrow + \text{Ca}(\text{Cl}_2 + 2 \text{ H}_2\text{O})$

6.2.3 反応

• 硫酸とアンモニア $2 \text{ NH}_3 + \text{H}_2 \text{SO}_4 \longrightarrow (\text{NH}_4)_2 \text{SO}_4$

● 塩素の検出

 $NH_3 + HCl \longrightarrow NH_4Cl \downarrow$

• アンモニアと二酸化炭素 $2 \text{ NH}_3 + \text{CO}_2 \longrightarrow (\text{NH}_2)_2 \text{CO} + \text{H}_2 \text{O}$

6.3 一酸化二窒素(笑気ガス)

化学式: 291 N₂O

6.3.1 性質

- 無色、少し甘味のある気体
- 水に少し溶ける
- 常温では反応性が低い
- [292]麻酔効果

6.3.2 製法

293 硝酸アンモニウム の熱分解 $NH_4NO_3 \xrightarrow{\Lambda} N_2O + 2H_2O$

6.4 一酸化窒素

化学式: [294]NO

6.4.1 性質

- [295]無色[296]無臭の[297]気体
- 中性で水に溶けにくい
- 空気中では 298 酸素とすぐに反応

6.5 二酸化窒素 6 窒素

• 血管拡張作用·神経伝達物質

6.4.2 製法

299銅と 300希硝酸

 $3 \operatorname{Cu} + 8 \operatorname{HNO}_3 \longrightarrow 3 \operatorname{Cu}(\operatorname{NO}_3)_2 + 2 \operatorname{NO} + 4 \operatorname{H}_2 \operatorname{O}$

6.4.3 反応

酸素と反応

 $2 \, \mathrm{NO} + \mathrm{O}_2 \longrightarrow 2 \, \mathrm{NO}_2$

6.5 二酸化窒素

化学式: [301]NO₂

6.5.1 性質

- 302 赤褐色 303 刺激 臭の 304 気体
- ・ 水と反応して(305)強酸性((306)酸性雨の原因)
- 常温では(307)四酸化二窒素 (308)無色)と(309)平衡状態 $2NO_2 \longrightarrow N_2O_4$
- 140°C 以上で熱分解 $2 \text{ NO}_2 \longrightarrow 2 \text{ NO} + \text{ O}_2$

6.5.2 製法

(310)銅と(311)濃硝酸

 $Cu + 4 HNO_3 \longrightarrow Cu(NO_3)_2 + 2 NO_2 + 2 H_2O$

6.6 硝酸

化学式: 312 HNO₃

6.6.1 性質

- 313無色(314)刺激臭で(315)揮発性の(316)液体
- 水に(317)よく溶ける
- [318]強酸性

($319 \text{HNO}_3 \Longrightarrow \text{H}^+ + \text{NO}_3^- \quad K_1 = 6.3 \times 10^1 \text{mol/L}$)

- 320 <mark>褐色瓶</mark> に保存(321 光分解)
- 322酸化 剤としての反応 希硝酸 $HNO_3 + H^+ + e^- \longrightarrow NO_2 + H_2O$
- 323酸化剤としての反応 濃硝酸
 HNO₃ + 3 H⁺ + 3 e⁻ → NO + 2 H₂O
- イオン化傾向が小さい Cu、Hg、Ag も溶解
- 324AI, 325Cr, 326Fe, 327Co, 328Niは
 329酸化皮膜が生じて不溶 濃硝酸
 330不動態
- <u>[331] 王水</u> (<u>[332] 濃塩酸</u>:1 <u>[333] 濃硝酸</u>=3:1) は、Pt,Au も溶解
- NO₃ は (334) 沈殿を作らない ⇒ (335) 褐輪反応で検出

6.6.2 製法

(336)オストワルト法

 $NH_3 + 2O_2 \longrightarrow HNO_3 + H_2O$

- 1. (337)白金 触媒で(338)アンモニアを(339)酸化 $4 NH_3 + 5 O_2 \longrightarrow 4 NO + 6 H_2O$
- 2. 340空気酸化 $2 \text{ NO} + \text{O}_2 \longrightarrow 2 \text{ NO}_2$
- 3. 341水 と反応 $3 \text{ NO}_2 + \text{H}_2\text{O} \longrightarrow 2 \text{ HNO}_3 + \text{NO}$
- 342 硝酸塩 に343 濃硫酸 を加えて加熱 $NaNO_3 + H_2SO_4 \longrightarrow NaHSO_4 + HNO_3 \uparrow$

6.6.3 反応

- アンモニアと硝酸 $NH_3 + HNO_3 \longrightarrow NH_4NO_3$
- 硝酸の光分解
 4 HNO₃ ^光 → 4 NO₂ + 2 H₂O + O₂
- 亜鉛と希硝酸 ${
 m Zn} + 2\,{
 m HNO_3} \longrightarrow {
 m Zn}({
 m NO_3})_2 + {
 m H_2} \!\uparrow$
- 銀と濃硝酸 Ag+2HNO₃ → AgNO₃ + H₂O + NO₂↑

7 リン

7.1 リン

7.1.1 性質

三種類の同[344]素体がある

□ 压/火 → 1 3 (<u>0 : 1)</u>	<u> </u>		
名称	<u>345黄</u> リン	<u>346</u> 赤 リン	黒リン
化学式	347)P ₄	348)P _x	P_4
融点	44°C	590°C*2	610°C
発火点	35°C	260°C	
光八点	349 <mark>水中</mark> に保存	350マッチの側薬	-
密度	$1.8 \mathrm{g/cm^3}$	$2.16 \mathrm{g/cm^3}$	$2.7 \mathrm{g/cm^3}$
毒性	351]猛毒	352)微毒	353)微毒
構造	PPP	P P P P P P P P P P	略
CS ₂ への溶解	(354)溶ける	(355)溶けない	356)溶けない

7.1.2 製法

- リン鉱石にケイ砂とコークスを混ぜて強熱し、蒸気を水で冷却 黄リン 工業的製法 $2 \operatorname{Ca_3}(PO_4)_2 + 6 \operatorname{SiO_2} + 10 \operatorname{C} \longrightarrow 6 \operatorname{CaSiO_3} + 10 \operatorname{CO} + P_4$
- ・ 空気を遮断して黄リンを 250°C で加熱 赤リン
- 空気を遮断して黄リンを 200°C、1.2 × 10⁹Pa で加熱 黒リン

7.2 十酸化四リン

化学式: [357]P₄O₁₀

7.2.1 性質

- 白色で昇華性のある固体
- [358] 潮解性 (水との親和性が [359] 非常に高い)
- 乾燥剤
- 水を加えて加熱すると反応(360)加水分解)

7.2.2 製法

[361]リンの燃焼

 $P_4 + 5 O_2 \longrightarrow P_4 O_{10}$

7.2.3 反応

水を加えて加熱

 $P_4O_{10} + 6 H_2O \longrightarrow 4 H_3PO_4$

7.3 リン酸

化学式: 362 H₃PO₄

7.3.1 性質

[363]中酸性

7.3.2 反応

- リン酸と水酸化カルシウムの完全中和 $2\,H_3PO_4 + 3\,Ca(OH)_2 \longrightarrow Ca_3(PO_4)_2 + 6\,H_2O$
- リン酸カルシウムとリン酸が反応して重過リン酸石 灰が生成

 $Ca_3(PO_4)_2 + 4H_3PO_4 \longrightarrow 3Ca(H_2PO_4)_2$

• リン酸カルシウムと硫酸が反応して過リン酸石灰が 牛成

 $\begin{array}{cccc} \mathrm{Ca_3(PO_4)_2} & + & 2\,\mathrm{H_2SO_4} & \longrightarrow & \mathrm{Ca(H_2PO_4)_2} & + \\ 2\,\mathrm{CaSO_4} & & & \end{array}$

8 炭素

8.1 炭素

8.1.1 性質

炭素の同(365)素体

- (366)ダイアモンド
- [367]黒鉛([368]グラファイト)
- 無定形炭素

用途 顔料・脱臭剤 (活性炭)

黒色で、黒鉛の美結晶が不規則に集合。電気伝導性を示す。

• [369]フラーレン

用途 医療・材料分野での応用

黒褐色で、60個の炭素原子がサッカーボール状につながった分子結晶。電気伝導性を示さない。

• グラフェン

用途 半導体材料への応用

黒鉛の平面性六角形状の層のうち一層だけを取り出したもの。電気伝導性を示す。

• カーボンナノチューブ

用途 水素吸蔵・電池電極への応用

グラフェンを円筒状に巻いたもの。電気伝導性を示す。

名称	370 ダイアモンド	<u>[371]黒鉛</u>
特徴	372 <u>無</u> 色 373 透明で屈折率が大きい固体	374 <u>黒</u> 色で(375)光沢がある固体
密度	$3.5 \mathrm{g/cm^3}$	$2.3 \mathrm{g/cm^3}$
構造	[376] <mark>正四面体</mark> 方向の[377] <mark>共有結合</mark> 結晶	(378)ズレた層状 構造((379)ファンデルワールス <u>カ</u>)
硬さ	380 非常に硬い	381 軟らかい
沸点	382高い	<u> 383)高い</u>
電気伝導性	<u> 384なし</u>	<u> </u>
用途	宝石・カッターの刃・研磨剤	鉛筆・電極

8.2 一酸化炭素

化学式: [386]CO

C, O 電子の持つ 392 電荷による効果

CO の極性は (394) 小さい

C≡O 間の 393 **電気陰性度** の差による効果

8.2.1 性質

- [395]無色[396]無臭で[397]有毒な気体
- ・ 赤血球のヘモグロビンの 398 Fe²⁺ に対して強い 399 酸化結合
- [400]中性で水に溶け [401]にくい。([402]水上置換)
- [403]可燃性、高温で[404]還元性([405]鉄との親和性が非常に高い)

8.3 二酸化炭素 8 炭素

8.2.2 製法

■ 406 赤熱したコークス に 407 水蒸気 を吹き付ける 工業的製法

$$C + H_2O \longrightarrow CO + H_2$$

・ 炭素の 408 不完全燃焼

$$2C + O_2 \longrightarrow 2CO$$

• [409] ギ酸に [410] 濃硫酸 を加えて加熱

$$\text{HCOOH} \xrightarrow{\text{H}_2\text{SO}_4} \text{CO} \uparrow + \text{H}_2\text{O}$$

● 411 シュウ酸に 412 濃硫酸 を加えて加熱

$$(COOH)_2 \longrightarrow CO + CO_2 + H_2O$$

8.2.3 反応

燃焼

$$CO + O_2 \longrightarrow 2CO_2$$

• 鉄の精錬

$$\operatorname{Fe_2O_3} + 3\operatorname{CO} \longrightarrow 2\operatorname{Fe} + 3\operatorname{CO}_2 \left\{ \begin{array}{l} \operatorname{Fe_2O_3} + \operatorname{CO} \longrightarrow 2\operatorname{FeO} + \operatorname{CO}_2 \\ \operatorname{FeO} + \operatorname{CO} \longrightarrow \operatorname{Fe} + \operatorname{CO}_2 \times 2 \end{array} \right.$$

8.3 二酸化炭素

8.3.1 性質

- 413無色 414無臭で 415昇華性(固体は 416)ドライアイス)
- 大気の 0.04% を占める
- 水に 417 少し溶ける
- [418]弱酸性

8.3.2 製法

(420)炭酸カルシウムを強熱 工業的製法

$$CaCO_2 \longrightarrow CaO + CO_2$$

● [421]希塩酸と [422]石灰石

$$CaCO_3 + 2HCl \longrightarrow CaCl_2 + H_2O + CO_2$$

(423)炭酸水素ナトリウムの熱分解

$$2\,\mathrm{NaHCO_3} \longrightarrow \mathrm{Na_2CO_3} + \mathrm{CO_2} + \mathrm{H_2O}$$

8.3.3 反応

• 二酸化炭素と水酸化ナトリウム

$$\mathrm{CO_2} + 2\,\mathrm{NaOH} \longrightarrow \mathrm{Na_2CO_3} + \mathrm{H_2O}$$

• [424] 石灰水 に通じると [425] 白濁 しさらに通じると [426] 白濁が消える

$$Ca(OH)_2 + CO_2 \Longrightarrow CaCO_3 \downarrow + H_2O$$

$$CaCO_3 + CO_2 + H_2O \Longrightarrow Ca(HCO_3)_2$$

9 ケイ素

9.1 ケイ素

9.1.1 性質

- [427]灰色で[428]光沢がある[429]共有結合結晶
- 430 硬いがもろい
- (431)半導体に使用(高純度のケイ素)*3
 高温にしたり微小の他電子を添加すると電気伝導性が(432)上昇(金属は高温で電気伝導性が(433)降下)

9.1.2 製法

- (434)ケイ砂と(435)一酸化炭素を混ぜて強熱 工業的製法 SiO₂ + 2 C → Si + 2 CO
- $\boxed{436$ ケイ砂 と $\boxed{437}$ マグネシウム 粉末を混ぜて加熱 $\mathrm{SiO}_2 + 2\,\mathrm{Mg} \longrightarrow \mathrm{Si} + 2\,\mathrm{MgO}$

9.2 二酸化ケイ素

化学式: [438]SiO₂

9.2.1 性質

- (439)無色(440)透明の(441)共有結合結晶
- 442 硬い
- 地球の近く中に多く存在(ケイ砂、石英、水晶)
- 443 酸性酸化物
- (444)シリカゲル (445)乾燥剤・吸着剤)の生成に用いられる多孔質、適度な数の(446)ヒドロキシ基

9.2.2 反応

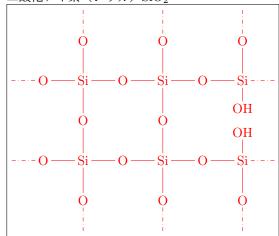
- 447フッ化水素と反応
 SiO₂ + 4 HF → SiF₄↑ + 2 H₂O
- 448フッ化水素酸と反応
 SiO₂ + 6 HF → H₂SiF₆↑ + 2 H₂O
- $\boxed{449$ 水酸化ナトリウム や $\boxed{450 }$ 炭酸ナトリウム がガラスを侵す反応($\boxed{451$ 水ガラス の生成) $\mathrm{SiO_2} + 2 \, \mathrm{NaOH} \longrightarrow \mathrm{Na_2SiO_3} + \mathrm{H_2O}$ $\mathrm{SiO_2} + \mathrm{Na_2CO_3} \longrightarrow \mathrm{Na_2SiO_3} + \mathrm{CO_2}$
- $\boxed{452$ 水ガラス と $\boxed{453}$ 塩酸 から $\boxed{454}$ ケイ酸 の白色ゲル状沈澱が生じる反応 $\mathrm{NaSiO_3}+2$ $\mathrm{HCl}\longrightarrow\mathrm{H_2SiO_3}\downarrow+2$ NaCl
- $\boxed{455$ ケイ酸 を加熱してシリカゲルを得る反応 $\text{H}_2 \text{SiO}_3 \xrightarrow{\Delta} \text{SiO}_2 \cdot n \text{ H}_2 \text{O} + (1-n) \text{H}_2 \text{O} \ (0 < n < 1)$

 $^{^{*3}}$ $6N\cdots$ 太陽電池用、 $11N\cdots$ 集積回路用

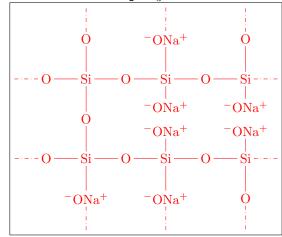
9.2 二酸化ケイ素 9.2 二酸化ケイ素

シリカゲル生成過程での構造変化

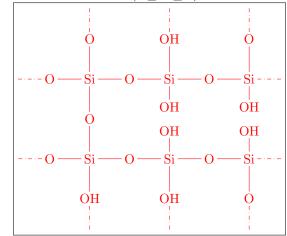
1. 二酸化ケイ素(シリカ) SiO_2



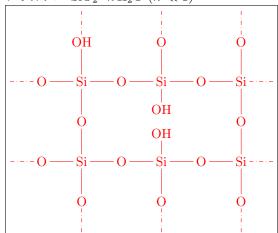
2. ケイ酸ナトリウム Na₂SiO₃



3. ケイ酸 $SiO_2 \cdot n H_2O$ $(0 \le n \le 1)$



4. シリカゲル $SiO_2 \cdot n H_2O \ (n \ll 1)$



第Ⅱ部

典型金属

10 アルカリ金属

10.1 単体

10.1.1 性質

- 銀白色で [456]柔らかい 金属
- 全体的に反応性が高く、 457 灯油中に保存
- 原子一個あたりの自由電子が (458)1個 ((459)弱い (460)金属結合)
- 還元剤として反応

 $M \longrightarrow M^+ + e^-$

化学式	Li	Na	K	Rb	Cs		
融点	181°C	98°C	64°C	39°C	28°C		
密度	0.53	0.97	0.86	1.53	1.87		
構造		461 体心立方	格子(462 軽金属)				
イオン化エネルギー	大	大					
反応力	小 —				大		
炎色反応	463	(464) <u>黄</u> 色	(465) 赤紫 色	466)深赤色	(467) 青紫 色		
用途	リチウムイオン 電池の負極	トンネル照明 高速増殖炉の冷却材	磁気センサー 肥料 (K ⁺)	光電池年代測定	光電管 電子時計 (一秒の基準)		

10.1.2 製法

水酸化物や塩化物の 468 溶融塩電解 (469 ダウンズ法) 工業的製法

[470]CaCl₂添加([471]凝固点降下)

 $2 \operatorname{NaCl} \longrightarrow 2 \operatorname{Na} + \operatorname{Cl}_2 \uparrow$

10.1.3 反応

• ナトリウムと酸素

 $4 \operatorname{Na} + \operatorname{O}_2 \longrightarrow 2 \operatorname{Na}_2 \operatorname{O}$

• ナトリウムと塩素

 $2\,\mathrm{Na} + \mathrm{Cl}_2 \longrightarrow 2\,\mathrm{NaCl}$

ナトリウムと水

 $2\,\mathrm{Na} + 2\,\mathrm{H}_2\mathrm{O} \longrightarrow 2\,\mathrm{NaOH} + \mathrm{H}_2\!\uparrow$

10.2 水酸化ナトリウム (苛性ソーダ)

化学式: 472 NaOH

10.2.1 性質

- 473 白色の固体
- [474]潮解性
- 水によくとける (水との親和性が [475] 非常に高い)
- 476 乾燥剤

• 強塩基性

$$\left(\begin{array}{c} \boxed{477} \text{NaOH} \Longrightarrow \text{Na}^+ + \text{OH}^- \\ \end{array}\right) K_1 = 1.0 \times 10^{-1} \text{mol/L}$$

空気中の (478) 二酸化炭素 と反応して、純度が不明
 酸の標準溶液 ((479)シュウ酸) を用いた中和滴定で濃度決定
 ((COOH)₂ + 2 NaOH → (COONa)₂ + 2 H₂O)

10.2.2 製法

(480)水酸化ナトリウム水溶液 の (481)電気分解 (イオン交換膜法) 工業的製法 $2 \operatorname{NaCl} + 2 \operatorname{H}_2 \operatorname{O} \longrightarrow 2 \operatorname{NaOH} + \operatorname{H}_2 \uparrow + \operatorname{Cl}_2 \uparrow$

10.2.3 反応

塩酸と水酸化ナトリウム HCl+NaOH → NaCl+H₂O

塩素と水酸化ナトリウム2 NaOH + Cl₂ → NaCl + NaClO + H₂O

• 二酸化硫黄と水酸化ナトリウム $SO_2 + 2 NaOH \longrightarrow Na_2SO_3 + H_2O$

• 酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液 ${\rm ZnO} + 2\,{\rm NaOH} + {\rm H_2O} \longrightarrow {\rm Na_2[Zn(OH)_4]}$

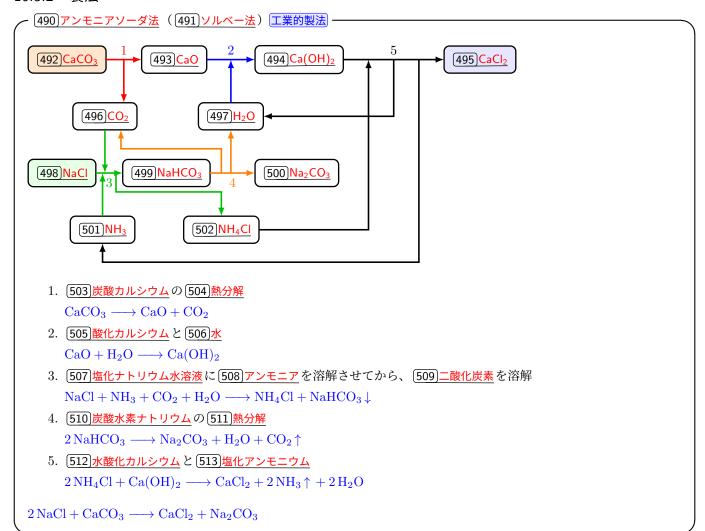
• 二酸化炭素と水酸化ナトリウム $2 \operatorname{NaOH} + \operatorname{CO}_2 \longrightarrow \operatorname{Na_2CO_3} + \operatorname{H_2O}$

10.3 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム

10.3.1 性質

名称	炭酸ナトリウム	炭酸水素ナトリウム
化学式	(482)Na ₂ CO ₃	(483)NaHCO ₃
色	484 白	(485)白色
融点	850°C	[486]熱分解
液性	(487) <u>塩基</u> 性	488 弱塩基 性
用途	[489] <mark>ガラス</mark> や石鹸の原料	胃腸薬・ふくらし粉

10.3.2 製法



10.3.3 反応

• Na₂CO₃ $\boxed{514}_{\text{CO}_3}^{2^-} + \text{H}_2\text{O} \Longrightarrow \text{HCO}_3^- + \text{OH}^-}$ $K_1 = 1.8 \times 10^{-4}$ • NaHCO₃ $\begin{cases} \boxed{515}_{\text{HCO}_3}^{2^-} \Longrightarrow \text{H}^+ + \text{CO}_3^{2^-} & K_1 = 5.6 \times 10^{-11} \\ \boxed{516}_{\text{HCO}_3}^{-} + \text{H}_2\text{O} \Longrightarrow \text{CO}_2 + \text{OH}^- + \text{H}_2\text{O}} & K_2 = 2.3 \times 10^{-8} \end{cases}$

11 2 族元素

[517]Be, [518]Mg, [519]アルカリ土類金属

11.1 単体

11.1.1 性質

化学式	(520) <mark>Be</mark>	[521]Mg	[522]Ca	523 <mark>Sr</mark>	524]Ba			
融点	1282°C	649°C	839°C	769°C	729°C			
密度 (g/cm ³)	1.85	1.74	1.55	2.54	3.59			
525 還元力		小	大					
水との反応	526 反応しない	[527] <mark>熱水</mark> と反応	528 <mark>冷水</mark> と反応	[529] <mark>冷水</mark> と反応	530 <mark>冷水</mark> と反応			
M(OH) ₂ の水溶性	<u>531)難溶</u> 性(532]弱塩基性)	[533]可溶性([534]強塩基性)					
難溶性の塩	[535]	MCO ₃	(536)MCO ₃ , MSO ₄					
炎色反応	537 示さない	538)示さない	539]橙赤	〔540 <mark>紅</mark>	541)黄緑			
用途	X 線通過窓	フラッシュ	精錬の還元剤	発煙筒	ゲッター			

11.1.2 製法

塩化物の 542 溶融塩電解 工業的製法

11.1.3 反応

• マグネシウムの燃焼

$$2 \,\mathrm{Mg} + \mathrm{O}_2 \longrightarrow 2 \,\mathrm{MgO}$$

• マグネシウムと二酸化炭素

$$2 \,\mathrm{Mg} + \mathrm{CO}_2 \longrightarrow 2 \,\mathrm{MgO} + \mathrm{C}$$

カルシウムと水

 $Ca + 2H_2O \longrightarrow Ca(OH)_2 + H_2 \uparrow$

11.2 酸化カルシウム(生石灰)

化学式: [543]CaO

11.2.1 性質

- [544] 白色
- <u>545</u>水との親和性が <u>546</u>非常に高い (<u>547</u>乾燥剤)
- 548 塩基性 酸化物
- 水との反応熱が [549] 非常に大きい ([550] 加熱剤)

11.2.2 製法

(551)炭酸カルシウムの(552)熱分解

 $CaCO_3 \longrightarrow CaO + CO_2$

11.2.3 反応

• コークスを混ぜて強熱すると、 [553] 炭化カルシウム (「554] カーバイド) が生成

$$CaO + 3C \longrightarrow CaC_2 + CO \uparrow$$

[555]水と反応して[556]アセチレンが生成

$$CaC_2 + 2H_2O \longrightarrow CaH_2 \uparrow + Ca(OH_2)_2$$

11.3 水酸化カルシウム(消石灰)

化学式: [557] Ca(OH)₂

11.3.1 性質

- [558] 白色
- 水に 559 少し溶ける 固体
- 560強塩基 (561Ca(OH)₂ \Longrightarrow Ca(OH)⁺ + OH⁻ $K_1 = 5.0 \times 10^{-2}$)
- 水溶液は 562 石灰水

11.3.2 製法

[563]酸化カルシウムと [564]水 工業的製法

 $CaO + H_2O \longrightarrow Ca(OH)_2$

11.3.3 反応

- 塩素と反応して、(565) さらし粉が生成 Ca(OH)₂ + Cl₂ → CaCl(ClO) · H₂O
- 580°C 以上で 566 熱分解

 $Ca(OH)_2 \longrightarrow CaO + H_2O$

- ・ 二酸化炭素との反応
 Ca(OH)₂ + CO₂
 → CaCO₃ + H₂O
- 塩化アンモニウムとの反応
 2 NH₄Cl + Ca(OH)₂ → CaCl₂ + 2 NH₃↑ + 2 H₂O

11.4 炭酸カルシウム(石灰石)

化学式: [567] CaCO₃

11.4.1 性質

- <u>568</u> <u>白</u>色で、水に <u>569</u> <u>溶けにくい</u>
- [570]**鍾乳洞**の形成

11.4.2 反応

800°C 以上で 571 熱分解

 $CaCO_3 \longrightarrow CaO + CO_2$

• $\boxed{572 \underline{\hspace{0.1cm}}\underline{\hspace{0.1cm}}\underline{\hspace{0.1cm}}\underline{\hspace{0.1cm}}\underline{\hspace{0.1cm}}\underline{\hspace{0.1cm}}\overline{\hspace{0.1cm}$

11.5 塩化マグネシウム・塩化カルシウム

化学式: [574] MgCl₂ · [575] CaCl₂

11.5.1 性質

[576] <mark>潮解</mark>性があり、水に[577] <mark>よく溶ける</mark> (水との親和性が[578] <mark>非常に高い</mark>)

[579]乾燥剤 塩化カルシウム、 [580]融雪剤

11.6 硫酸カルシウム 12 12 族元素

11.5.2 製法

- 海水から得た [581] にがりを濃縮 塩化マグネシウム 工業的製法
- [582]アンモニアソーダ法 ([583]ソルベー法) 塩化カルシウム 工業的製法

11.6 硫酸カルシウム

化学式: [584] CaSO₄

11.6.1 性質

[585]セッコウを約 150°C で加熱すると、[586]焼きセッコウが生成

[587]水を加えると、[588]発熱・[589]膨張・[590]硬化して[591]セッコウに戻る

 $CaSO_4 \cdot 2H_2O \rightleftharpoons CaSO_4 \cdot \frac{1}{2}H_2O + \frac{3}{2}H_2O$

用途 医療用ギプス・石膏像・建材

11.7 硫酸バリウム

化学式: [592]BaSO₄

11.7.1 性質

- [593] <u>白</u>色で、水に [594] ほとんど溶けない 固体
- 反応性が 595 低く、X 線を遮蔽

12 12 族元素

12.1 単体

12.1.1 性質

化学式	(596) <mark>Zn</mark>	(597)Cd	(598)Hg		
融点	420°C	321°C	−39°C		
密度	7.1	8.6	13.6		
$M^{2+}aq + H_2S$	[599 <u>白</u> 色の[600]ZnS ↓	<u>601黄</u> 色の <u>602</u> CdS↓	603黒色の 604 HgS ↓		
(沈澱条件)	(<u>605<mark>中塩基性</mark>)</u>	(606)全液性)	(<u>607<mark>全液性</mark></u>)		
特性	高温の水蒸気と反応	Cd ²⁺ は Ca ²⁺ と類似	[608] <mark>合金</mark> を作りやすい		
141工	<u>609</u> 両性元素	⇒ イタイイタイ病	(610)アマルガム)		
用途	<u>611トタン</u> (鉄にメッキ)	ニカド電池 (Ni-Cd)	体温計・蛍光灯		

- 12 族の硫化物は 612 顔料や 613 染料 に利用
- HgS は 450°C で消火させると 614 赤色に変化

12.1.2 製法

関亜鉛鉱を焙焼して得た酸化亜鉛に、コークスを混ぜて加工 工業的製法 $2 \text{ ZnS} + 3 \text{ O}_2 \longrightarrow 2 \text{ ZnO} + 2 \text{ SO}_2$ $2 \text{ ZnO} + C \longrightarrow 2 \text{ Zn} + C \text{ O}$

12.1.3 反応

• 高温の水蒸気と反応 ${
m Zn} + {
m H_2O} \longrightarrow {
m ZnO} + {
m H_2} {
m \uparrow}$

• 塩酸と反応

 $Zn + 2 HCl \longrightarrow ZnCl_2 + H_2 \uparrow$

• 水酸化ナトリウム水溶液と反応

 $\mathrm{Zn} + 2\,\mathrm{NaOH} + 2\,\mathrm{H}_2\mathrm{O} \longrightarrow \mathrm{Na}_2[\mathrm{Zn}(\mathrm{OH})_4] + \mathrm{H}_2 \,\uparrow$

12.2 酸化亜鉛(亜鉛華)・水酸化亜鉛

化学式: [615]ZnO·[616]Zn(OH)₂

12.2.1 性質

- <u>617</u>白色で、水に <u>618 とけにくい</u> 固体
- 酸化亜鉛は 619 顔料
- 620両性酸化物/水酸化物
 (621)酸・(強) (622)塩基と反応 Zn²⁺ は、(623)OH⁻とも(624)NH₃とも錯イオンを形成

12.2.2 製法

- 亜鉛を燃焼 工業的製法 酸化亜鉛
 - $2\operatorname{Zn} + \operatorname{O}_2 \longrightarrow 2\operatorname{ZnO}$
- 亜鉛イオンを含む水溶液に、少量の[625]OH⁻ を加える 水酸化亜鉛

$$\operatorname{Zn}^{2+} + 2\operatorname{OH}^{-} \longrightarrow \operatorname{Zn}(\operatorname{OH})_{2} \downarrow$$

12.2.3 反応

- 酸化亜鉛と塩酸
 - $ZnO + 2HCl \longrightarrow ZnCl_2 + H_2O$
- 酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液

 $ZnO + 2 NaOH + H_2O \longrightarrow Na_2[Zn(OH)_4]$

• 水酸化亜鉛と塩酸

 $Zn(OH)_2 + 2HCl \longrightarrow ZnCl_2 + 2H_2O$

- 水酸化亜鉛と水酸化ナトリウム水溶液
 - $Zn(OH)_2 + 2 NaOH \longrightarrow Na_2[Zn(OH)_4]$
- 水酸化亜鉛の過剰な (626) アンモニア との反応 Zn(OH)₂ + 4 NH₃ → [Zn(NH₃)₄](OH)₂

12.3 塩化水銀(Ⅰ)•塩化水銀(Ⅱ)

化学式: 627 Hg₂Cl₂ · 628 HgCl

12.3.1 性質

- 白色で、水に溶けにくい固体で、微毒
- 白色で、水に少し溶ける固体で、猛毒

12.3.2 製法

水酸化銀(Ⅱ)と水銀の混合物を加熱

 $HgCl_2 + Hg \longrightarrow Hg_2Cl_2$

13 アルミニウム

13.1 アルミニウム

13.1.1 性質

- 密度が 629 小さく、 630 やわからかい 金属
- 展性・延性が [631] 大きく、電気・熱伝導率が [632] 高い

- 電気・熱伝導性が高い金属 ―

(633)Ag > (634)Cu > (635)Au > (636)Al

- 637両性元素(638濃硝酸には639不動態となり反応しない)
 表面の緻密な640酸化被膜が内部を保護(641 AI, 642 Cr, 643 Fe, 644 Co, 645 Ni *4)
 電気分解(646 陽極)で人工的に厚い酸化被膜をつける製品加工(647 アルマイト)
- イオン化傾向が 648 大きく、 649 還元力が 650 高い
- 651 テルミット 反応(多量の(652)熱・(653)光が発生)

13.1.2 製法

- <u>[654]ボーキサイト</u>から得た <u>[655]酸化アルミニウム</u> (<u>[656]アルミナ</u>) の溶融塩電解 <u>工業的製法</u>
- バイヤー法
 - 1. $\overline{(657)}$ ボーキサイト を濃い $\overline{(658)}$ 水酸化ナトリウム</u>水溶液に溶解 $Al_2O_3 + 2 NaOH + 3 H_2O \longrightarrow 2 Na[Al(OH)_4]$
 - 2. 溶解しない不純物を濾過して、濾液を水で希釈して Al(OH)3 の種結晶を入れる $Na[Al(OH)_4] \longrightarrow NaOH + Al(OH)_3 \downarrow$
 - 3. 成長した $Al(OH)_3$ を強熱 $2\,Al(OH)_3 \longrightarrow Al_2O_3 + 3\,H_2O$
- ホールエール法
 - 1. [659] <mark>氷晶石</mark> Na₃ AlF₆ を融解し、酸化アルミニウムを溶解
 - 2. [660]炭素 電極で電気分解 $\left\{ \begin{array}{ll} {\rm \pmb{B}}{\rm \pmb{w}} & {\rm C} + {\rm O}^{2-} \longrightarrow {\rm CO} + 2\,{\rm e}^-, {\rm C} + 2\,{\rm O}^{2-} \longrightarrow {\rm CO}_2 + 4\,{\rm e}^- \\ {\rm \pmb{E}}{\rm \pmb{w}} & {\rm Al_3}^+ + 3\,{\rm e}^- \longrightarrow {\rm Al} \end{array} \right.$

13.1.3 反応

1. アルミニウムの燃焼

$$4 \text{ Al} + 3 \text{ O}_2 \longrightarrow 2 \text{ Al}_2 \text{O}_3$$

- 2. アルミニウムと高温の水蒸気
 - $2 \text{ Al} + 3 \text{ H}_2 \text{O} \longrightarrow \text{Al}_2 \text{O}_3 + 3 \text{ H}_2 \uparrow$
- 3. テルミット反応

 $Fe_2O_3 + 2Al \longrightarrow Al_2O_3 + 2Fe$

13.2 酸化アルミニウム・水酸化アルミニウム

化学式: [661]Al₂CO₃・[662]Al(OH)₃ 酸化アルミニウムの別称: [663]アルミナ

^{*4} てつこに

13.2.1 性質

- [664] 白色で、水に [665] 溶けにくい
- [666]両性酸化物/水酸化物

[667]酸・(強) [668]塩基と反応

Al³⁺ は[669]OH⁻と錯イオンを形成し、[670]NH₃とは形成しない

13.2.2 製法

- バイヤー法
- アルミニウムイオンを含む水溶液に、少量の 671 塩基 を加える 水酸化アルミニウム $Al_3^+ + 3 OH^- \longrightarrow Al(OH)_3 \downarrow$

13.2.3 反応

• 酸化アルミニウムと塩酸

 $Al_2O_3 + 6HCl \longrightarrow 2AlCl + 3H_2O$

• 酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液

 $Al_2O_3 + 2 NaOH + 3 H_2O \longrightarrow 2 Na[Al(OH)_4]$

• 水酸化アルミニウムと塩酸

 $Al(OH)_3 + 3HCl \longrightarrow AlCl_3 + 3H_2O$

• 水酸化アルミニウムと水酸化ナトリウム水溶液

 $Al(OH)_3 + NaOH \longrightarrow Na[Al(OH)_4]$

13.3 ミョウバン・焼きミョウバン

化学式: 672 AIK(SO₄)₂·12 H₂O · 673 AIK(SO₄)₂

13.3.1 性質

- 674 白色で、水に 675 溶ける 固体
- 676 酸性

(677)Al³⁺ + H₂O \implies Al(OH)₂ + H⁺ $K_1 = 1.1 \times 10^{-5} \text{ mol/L}$

● Al³⁺ は価数が 678 大きい 陽イオン

粘土([679]負の[680]疏水コロイド)で濁った水の浄水処理([681]凝析)

13.3.2 製法

硫酸化アルミニウムと硫酸カリウムの混合水溶液を濃縮

• 水への溶解

 $AlK(SO_4)_2 \longrightarrow Al_3^+ + K^+ + SO_4^{2-}$

14 スズ・鉛

14.1 単体

14.1.1 性質

化学式	(682) <mark>Sn</mark>	(683)Pb		
特徴	灰白色で柔らかい金属	青白色で柔らかい金属		
融点	232°C	328°C		
密度	7.28	11.4		
特性	684)両			
用途	<u>[685]ブリキ</u> (鉄にメッキ)	(686) <mark>鉛蓄</mark> 電池の(687)負極		
用坯	(688)放射	<mark>線</mark> の遮蔽		

【合金】

 $Cu + Sn \cdots$ 689青銅

 $\operatorname{Sn} + \operatorname{Pb} \cdots$ (690)はんだ

14.1.2 製法

• 錫石 SnO_2 にコークスを混ぜて加熱 $\boxed{\mathtt{T業的製法}}$

$$SnO_2 + 2C \longrightarrow Sn + 2CO$$

• 方鉛鉱 PbS を焙焼してから、コークスを混ぜて加熱 工業的製法

$$2 \operatorname{PbS} + 3 \operatorname{O}_2 \longrightarrow 2 \operatorname{PbO} + 2 \operatorname{SO}_2$$

 $\operatorname{PbO} + \operatorname{C} \longrightarrow \operatorname{Pb} + \operatorname{CO}$

14.1.3 反応

● 鉛と 691 希硝酸

$$3 \,\mathrm{Pb} + 8 \,\mathrm{HNO}_3 \longrightarrow 3 \,\mathrm{Pb}(\mathrm{NO}_3)_2 + 4 \,\mathrm{H}_2\mathrm{O} + 2 \,\mathrm{NO}$$

● 鉛と 692 酢酸

$$2 \text{ Pb} + 4 \text{ CH}_3 \text{COOH} + \text{O}_2 \longrightarrow 2 (\text{CH}_3 \text{COO})_2 \text{Pb} + 2 \text{ H}_2 \text{O}$$

スズと 693 塩酸

$$\operatorname{Sn} + 2\operatorname{HCl} \longrightarrow \operatorname{SnCl}_2 + \operatorname{H}_2 \!\uparrow$$

• 鉛蓄電池における反応

Pb + PbO₂ + 2 H₂SO₄
$$\stackrel{\text{放電}}{\rightleftharpoons}$$
 2 PbSO₄ + 2 H₂O
$$\begin{cases} \text{ 正極} & \text{PbO}_2 + \text{SO}_4^{2^-} 4 \text{ H}^+ + 2 \text{ e}^- \longrightarrow \text{PbSO}_4 + 2 \text{ H}_2\text{O} \\ \text{ 負極} & \text{Pb} + \text{SO}_4^{2^-} \longrightarrow \text{PbSO}_4 + 2 \text{ e}^- \end{cases}$$

14.2 塩化スズ(Ⅱ)

- 14.2.1 性質
- 14.2.2 製法

スズと (694) 塩酸

 $\operatorname{Sn} + 2\operatorname{HCl} \longrightarrow \operatorname{SnCl}_2 + \operatorname{H}_2 \uparrow$

14.2.3 反応

塩化鉄(Ⅲ)水溶液と塩化スズ(Ⅱ)水溶液

$$2\operatorname{FeCl}_3 + \operatorname{SnCl}_2 \longrightarrow 2\operatorname{FeCl}_2 + \operatorname{SnCl}_4$$

備考 塩化スズ (IV) 水溶液と硫化水素

$$SnCl_4 + 2\,H_2S \longrightarrow SnS + S + 4\,HCl$$

14.3 酸化鉛 (IV) 14 スズ・鉛

14.3 酸化鉛(IV)

14.3.1 性質

[695] <mark>還元</mark>剤として働く

 $\boxed{696} \text{Sn}^{2+} \longrightarrow \text{Sn}^{4+} + 2 \, \text{e}^{-}$

14.3.2 製法

酢酸鉛(Ⅱ)水溶液にさらし粉を加える

14.3.3 反応

酸化鉛(IV)に濃塩酸を加えて加熱

 $\mathrm{PbO_2} + 4\,\mathrm{HCl} \longrightarrow \mathrm{PbCl_2} + 2\,\mathrm{H_2O} + \mathrm{Cl_2} \uparrow$

14.4 鉛の難溶性化合物

- 加熱すると溶けやすい
- [697]<u>酢酸鉛 (Ⅱ)</u> 紙を用いた [698]<u>硫化水素</u>の検出 (「699]<u>黒</u>色)

第Ⅲ部

遷移元素

d 軌道・f 軌道(内殻)の秋に電子が入っていき、最外殻電子の数は[700] 1 か 2

([701]ランタノイド・[702]アクチノイド:f 軌道に入っていく過程)

同族元素だけでなく、同周期元素も性質が似ている。

15 性質

- 単体は密度が[703]大きく、融点が[704]高い金属
- d 軌道の一部の電子も価電子
- ◆ 化合物やイオンは (705) 白色のものが多い
- 安定な (706) 錯イオン を形成しやすい ((707)d 軌道に空きがある)
- 単体や化合物は (708) 触媒になるものが多い*5

• 酸化数が
$$\left\{ \begin{array}{c} 小さい \\ 大きい \end{array} \right\}$$
酸化物は $\left\{ \begin{array}{c} 709 \ \hline{\overline{$

16 鉄・コバルト・ニッケル

16.1 鉄

16.1.1 性質

- 常温で 711 強磁性
- イオン化傾向が水素より (712)大き

713 <u>強酸</u>と反応(<u>714) 濃硝酸</u>には<u>715) 不動態</u>となり反応しない)

- ▼ 716 高温の水蒸気と反応して (717) 緻密な (718) 黒錆が生成(酸化被膜)
- 湿った空気中では[719]粗い[720]赤錆を生成

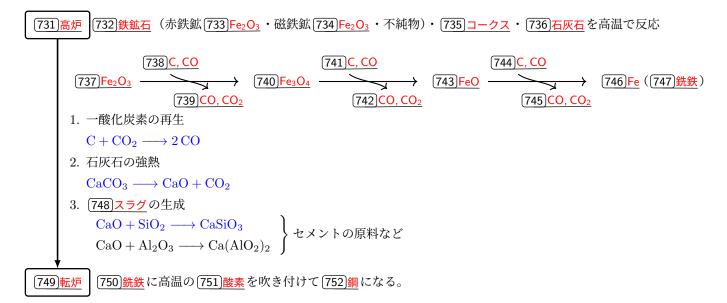
酸化鉄(III)	Fe_2O_3	721 赤褐色	722 常磁性
四酸化三鉄	Fe_3O_4	723 <u>黒</u> 色	724]強磁性
酸化鉄(Ⅱ)	FeO	(725) <mark>黒</mark> 色	726

軟鋼	(727)鉄鋼	728	729 ステンレス鋼	KS 磁石鋼
C0.2% 未満	C2% 未満	C2% 以上	(730) Cr, Ni	Co, W, Cr
加工しやすい	硬くて弾性あり	硬くてもろい	錆びにくい	
鉄筋・鉄骨	レール・バネ	鋳物	キッチン	人工永久磁石

^{*5} $\bigcirc VsO_5, MnO_2, Fe_3O_4, Pt$

16.1.2 製法

鉄の製錬工業的製法



16.1.3 反応

● 塩酸との反応

$$Fe + 2 HCl \longrightarrow FeCl_2 + H_2 \uparrow$$

• 高温の水蒸気との反応

$$3 \operatorname{Fe} + 4 \operatorname{H}_2 O \longrightarrow \operatorname{Fe}_3 O_4 + 4 \operatorname{H}_2 \uparrow$$

- 微量に含まれる炭素・鉄・水による $\overline{(753)}$ 局部電池 ($\overline{(754)}$ 食塩 などが溶けていたら反応速度上昇) 正極 ($\overline{(755)}$ C) $O_2 + 2 H_2 O + 4 e^- \longrightarrow 4 O H^-$ 負極 ($\overline{(756)}$ Fe) Fe \longrightarrow Fe²⁺⁺ 2 e⁻
- 757水酸化鉄(Ⅱ)の生成

$$Fe^{2+} + 2OH^{-} \longrightarrow Fe(OH)_{2}$$
 (758)緑色)

・速やかに (759)水酸化鉄 (Ⅱ) が酸素により酸化

$$4\operatorname{Fe}(\mathrm{OH})_2 + \mathrm{O}_2 + 2\operatorname{H}_2\mathrm{O} \longrightarrow 4\operatorname{Fe}(\mathrm{OH})_2$$

760水酸化鉄(Ⅲ) の脱水

$$\operatorname{Fe}(\operatorname{OH})_3 \longrightarrow \operatorname{FeO}(\operatorname{OH}) + \operatorname{H}_2\operatorname{O}$$
(酸化水酸化鉄(III)濃橙色) $2\operatorname{Fe}(\operatorname{OH})_3 \longrightarrow \operatorname{Fe}_2\operatorname{O}_3 \cdot n \operatorname{H}_2\operatorname{O} + (3-n)\operatorname{H}_2\operatorname{O}$ (761 赤褐色) (エバンスの実験)

16.2 硫酸鉄(Ⅱ)7水和物

化学式: (762) FeSO₄·7 H₂O

16.2.1 性質

- ▼763 青緑色の固体
- Fe²⁺ 半反応式

$$(764)$$
Fe²⁺ \longrightarrow Fe³⁺ + e⁻

● 空気中で表面が [765] Fe₂(SO₄)₃ ([766] 黄褐色)

16.2.2 製法

鉄に[767] <mark>希硫酸</mark>を加えて、蒸発濃縮

 $Fe + H_2SO_4 \longrightarrow FeSO_4 + H_2 \uparrow$

16.3 塩化鉄(Ⅲ)6水和物

化学式: [768] FeCl₃·6 H₂O

16.3.1 性質

- ▼ (769) 黄褐色で (770) 潮解性のある固体
- 771 酸性

 $\left(\begin{array}{cc} (772)\text{Fe}^{3+} + \text{H}_2\text{O} & \Longrightarrow \text{FE}(\text{OH})^{2+} + \text{H}^+ \end{array} \right) K_1 = 6.0 \times 10^{-3} \text{ mol/L}$

16.3.2 製法

鉄に希塩酸を加えてから、塩素を通じる。

 $\begin{aligned} \operatorname{Fe} + 2 \operatorname{HCl} &\longrightarrow \operatorname{FeCl}_2 + \operatorname{H}_2 \uparrow \\ 2 \operatorname{FeCl}_2 + \operatorname{Cl}_2 &\longrightarrow 2 \operatorname{FeCl}_3 \end{aligned}$

16.4 鉄イオンの反応

	NaOH	$K_4[Fe(CN)_6]$	$K_3[Fe(CN)_6]$		
Fe^{2+}	773 Fe(OH) ₂ ↓	$\text{Fe}_2[\text{Fe}(\text{CN})_6]\downarrow$	$KFe[Fe(CN)_6]\downarrow$	774)変化なし	775 変化なし
776)淡緑色	(777) <mark>緑白</mark> 色	777 <mark>緑白</mark> 色 778 青白		780 淡緑色	781 淡緑色
Fe ³⁺	782)Fe(OH) ₃ ↓	$KFe[Fe(CN)_6]\downarrow$	$Fe[Fe(CN)_6]aq$	(783)Fe ²⁺ aq	$[Fe(NCS)]^{2+}$
784 黄褐色	785] <mark>赤褐</mark> 色	786 濃青色	787 <mark>暗褐</mark> 色	788)淡緑色	789 <u>血赤</u> 色

- Fe²⁺, Fe³⁺ は、「790] OH⁻ とも [791] OH⁻ とも錯イオンを形成しない
- ◆ ベルリンブルーとターンブルブルーは 792 同一物質

16.5 塩化コバルト(Ⅱ)

化学式: [793]CoCl₂

16.5.1 性質

- [794] 青色で [795] 潮解性のある固体
- 6 水和物は 796 淡赤色
- 塩化コバルト紙を用いた [797]水の検出
- CO³⁺ は 798 NH₃ と錯イオンを形成

16.6 硫酸ニッケル(Ⅱ)

化学式: [799]NiSO₄

- 黄緑色で潮解性のある固体
- 6 水和物は青緑色
- Ni²⁺ は 800 NH₃ と錯イオンを形成

17 銅

17.1 銅

17.1.1 性質

- 801 赤色の金属光沢
- 他の金属とさまざまな色の[802]合金
- 展性・延性が 803 大きく、電気・熱伝導性が 804 高い
- イオン化傾向が水素より [805]低く、酸化力のある酸と反応
- 空気中で徐々に酸化して、緻密な錆(806)酸に溶解)が生成
 807赤色の酸化銅(I) 乾・808青緑の錆(809)緑青)湿
- 空気中で加熱して、(810)黒色の(811)酸化銅(Ⅱ) (1000°C未満)・(812)赤色の(813)酸化銅(Ⅰ) (1000°C以上)

17.1.2 製法

銅の製錬 粗鋼・814電解精錬 純銅 工業的製法 815 高炉 816 黄銅鉱 (817CuFeS_2) ・818 コークス・819 石灰石 ・820 ケイ砂 を高温で反応 FeSiO $_3$ Cu_2S 硫化銅 (I) に 823 酸素 を吹き付けて、824 粗銅 にする。 $2 \text{Cu}_2S + 3 \text{O}_2 \longrightarrow 2 \text{Cu}_2O + 2 \text{SO}_2$ $\text{Cu}_2S + 2 \text{Cu}_2O \longrightarrow 6 \text{Cu} + \text{SO}_2$

17.1.3 反応

• 銅と希硝酸

$$3 \text{ Cu} + 8 \text{ HNO}_3 \longrightarrow 3 \text{ Cu}(\text{NO}_3)_2 + 4 \text{ H}_2\text{O} + 2 \text{ NO} \uparrow$$

● 銅と濃硝酸

$$Cu + 4 HNO_3 \longrightarrow Cu(NO_3)_2 + 2 H_2O + 2 NO_2 \uparrow$$

• 銅と熱濃硫酸

$$Cu + 2 H_2 SO_4 \longrightarrow Cu SO_4 + 2 H_2 O + SO_2 \uparrow$$

17.2 硫酸銅(Ⅱ)5水和物

17.2.1 性質

- [825]青色の固体 (結晶中の[826][Cu(H₂O)₄]²⁺の色)
- 温度による物質変化

$$5$$
 水和物 $\xrightarrow{102^{\circ}\text{C}}$ 827]3 水和物 $\xrightarrow{113^{\circ}\text{C}}$ 828]1 水和物 $\xrightarrow{150^{\circ}\text{C}}$ 829)無水和物 $\xrightarrow{650^{\circ}\text{C}}$ 830]酸化銅(II) $= \text{H}_2\text{O}$ (検出)

- Cu²⁺ による 833 殺菌作用(農薬)
- 還元性を持つ有機化合物の検出*6

^{*6} フェーリング液・ベネディクト液

17.3 銅(Ⅱ)イオンの反応 18 銀

834 赤色の酸化銅(I)が生成

17.2.2 製法

銅に835濃硫酸をかけてから836加熱。

17.2.3 反応

17.3 銅(II) イオンの反応

	少々の塩基	過剰の NH ₃	濃塩酸	H ₂ S(<u>837)全液性</u>)
Cu ²⁺	838 Ca(OH) ₂ ↓	$[839][Ca(NH_3)_4]^{2+}$ aq	840)[CuCl ₄] ²⁻ aq	841)CuS↓
842青色	843 青白 色	<u>[844]深青</u> 色	845 黄緑色	846]黒色

炎色反応: 847 青緑色

● 加熱すると 848 分解

• Cu²⁺ は[849]NH₃と錯イオンを形成し、[850]OH⁻とは形成しない

17.4 銅の合金

851 黄銅 (真鍮)	<u>852 洋銀</u> (洋白)	853 白銅	853 白銅 854 青銅 8		
856 Zn	857) Zn, Ni	858 Ni	859) <mark>Sn</mark>	860 AI (主成分)	
適度な強度と加工性	柔軟で錆びにくい	柔軟で錆びにくい	硬くて錆びにくい	軽くて丈夫	
楽器・水道用具	楽器・水道用具 食器・装飾品		像	航空機・車両	

18 銀

18.1 銀

18.1.1 性質

- 展性・延性が (861)大きく、電気・熱伝導性が (862)最も高い
- イオン化傾向が水素より 863 小さい864 酸化力のある酸(865 硝酸・866 熱濃硫酸)と反応
- 空気中で酸化しにくいが、 867 硫化水素 とは容易に反応

18.1.2 製法

- 銅の電解精錬の 868 陽極泥 工業的製法
- 銀の化合物の 869 <u>熱</u>分解・ 870 <u>光</u>分解

18.2 銀(I) イオンの反応

871 硝酸銀水溶液

	少量の塩基	過剰の NH ₃	HCl	H ₂ S(<u>872)全液</u> 性)	K_2CrO_4
Ag^{2+}	873]Ag ₂ O↓	[874][Ag(NH ₃) ₂] ⁺	(875)AgCl↓	876)Ag ₂ S↓	877)Ag ₂ CrO ₄ ↓
878無色	879褐色	880 <u>無</u> 色	881	(882) <u>黒</u> 色	[883] <mark>赤褐</mark> 色

- 18.3 難溶性化合物の溶解性
- 19 クロム・マンガン
- 19.1 単体
- 19.2 クロム酸カリウム・二クロム酸カリウム
- 19.3 過マンガン酸カリウム
- 19.4 マンガンの安定な酸化数

第IV部

APPENDIX

A 気体の乾燥剤

固体の乾燥剤は[884] U字管につめて、液体の乾燥剤は[885] 洗気瓶に入れて使用。

性質	乾燥剤	化学式	対象	対象外 (不適)			
酸性	(886)十酸化四リン	(887)P ₄ O ₁₀	酸性・中性	塩基性の気体([888]NH ₃)			
段江	889]濃硫酸	890 H ₂ SO ₄	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	+ <u>891 H₂S</u> (<u>892)還元剤</u>)			
中性	893 塩化カルシウム	894) CaCl ₂	ほとんど全て	895 NH₃			
十庄	896)シリカゲル	897SiO ₂ · n H ₂ O	はこんと主し	特になし			
塩基性	898酸化カルシウム	899 CaO	中性・塩基性	酸性の気体			
塩基性	900ソーダ石灰	901)CaO ≿ NaOH) 中庄·塩基住	902]Cl ₂ , 903]HCl, 904]H ₂ S, 905]SO ₂ , 906]CO ₂ , 907]N			

B 水の硬度

水の中の重荷 $\mathrm{Ca^{2+}}$ と $\mathrm{Mg^{2+}}$ を $\mathrm{CaCO_3}$ として換算した時の濃度 $[\mathrm{mg/L}]$

 $egin{align*} & \raisetangle & \raisetangl$

C 錯イオンの命名法

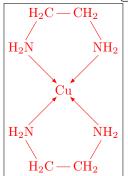
(主に遷移) 金属イオンに対して、[909]非共有電子対を持つ[910]分子や[911]イオンが[912]配位結合

「配位子の数(数詞)配位子 金属 (価数) 酸 (陰イオンの場合) イオン」

金属イ	オン	Ag ⁺	Cu	ı ⁺	Cu ²⁺		Zn^{2+}		Fe ²⁺	Fe^{3-}	+ Co ³⁺	Ni ²⁺	Cr^{3+}	Al^{3+}	
配位	数	G	913) <mark>2</mark>		914]4				<u>915)</u> 6						
916 <u>直線</u> 系 917 <u>正方</u> 形 918 <u>正四面体</u> 形 919 <u>正八面体</u> 形															
数	1		2	2	3		4		5		6		7	8	
数詞	920	20)モノ (921)ジ		リジ	922	J	923テトラ		924 ~>	/タ	925 ^ + +	92	26)ヘプタ	927	ナクタ
	928ビス 929トリス		<u>ス</u>												
配位子 NH ₃ CI		CN^-		H ₂ O		$\mathrm{OH^-}$	OH ⁻ Cl ⁻			H_2N-C	$\mathrm{CH_{2}CH_{2}}$	$-\mathrm{NH}_2$			
名称	93	0アン	ミン	931	31)シアニド		32)アクア	93	3)ヒドロ=	3 ヒドロキシド 934 クロリド		935] <mark>工</mark>	35 エチレンジアミ		

エチレンジアミン $\cdots 1$ 分子あたり 2 か所で $\boxed{936}$ 配位 結合

する (2 座配位子) (937 キレート 錯体)



• $[Zn(OH)_4]^{2-}$

[938]テトラヒドロキシド亜鉛(II)酸イオン

• $[Zn(NH_3)_4]^{2+}$

939 テトラアンミン亜鉛(II) イオン

• $[Ag(S_2O_3)_2]^{3-}$

[940]ビス (チオスルファト) 銀 (I) イオン

• $[Cu(H_2NCH_2CH_2NH_2)]^{2+}$

941)ビス (エチレンジアミン) 銅 (Ⅱ) イオン

D 金属イオンの難容性化合物

		0.0.2			0.5-	0.5-	1
	Cl ⁻	$\mathrm{SO_4}^{2-}$	$\mathrm{H_2S}$	$\mathrm{H_2S}$	OH ⁻	OH ⁻	
			酸性	中・塩基性	NH3	過剰	
K ⁺	942 沈殿しない	943 沈殿しない	944 沈殿しない	945 沈殿しない	946 沈殿しない	947 沈殿しない	
	949 <u>無</u> 色	950 <u>無</u> 色	951 <u>無</u> 色	952 <u>無</u> 色	953 <u>無</u> 色	954)無色	
Ba ²⁺	956)沈殿しない	957 BaSO ₄	958 沈殿しない	959 沈殿しない	960 沈殿しない	961 沈殿しない	
	<u>963)無</u> 色	964) 白 色	965)無色	966)無色	<u>967無</u> 色	<u>968無</u> 色	
Sr^{2+}	970)沈殿しない	971)SrSO ₄	972)沈殿しない	973 沈殿しない	974)沈殿しない	975)沈殿しない	
	977 <u>無</u> 色	978 白 色	979 <u>無</u> 色	<u>980無</u> 色	<u>981)無</u> 色	982 <u>無</u> 色	
Ca ²⁺	984)沈殿しない	985 CaSO ₄	986 沈殿しない	987 沈殿しない	988)Ca(OH) ₂	989 Ca(OH) ₂	
	<u>991</u> 無色	992 白 色	<u>993</u> 無色	<u>994</u> 無色	995 白 色	996 白 色	
Na ⁺	998 沈殿しない	999 沈殿しない	1000 沈殿しない	[1001]沈殿しない	[1002]沈殿しない	[1003]沈殿しない	
	[1005]無色	1006無色	1007無色	1008無色	1009無色	1010無色	
Mg^{2+}	[1012]沈殿しない	1013 沈殿しない	1014 沈殿しない	1015 沈殿しない	1016 Mg(OH) ₂	1017 Mg(OH) ₂	
	1019無色	1020無色	[1021]無色	1022無色	[1023]白色	1024) 白 色	
Al^{3+}	[1026]沈殿しない	[1027]沈殿しない	[1028]沈殿しない	1029 AI(OH) ₃	1030)AI(OH) ₃	[1031][Al(OH) ₄]	
	[1033]無色	[1034]無色	[1035]無色	[1036]白色	1037 白 色	1038 白 色	
Mn^{2+}	[1040]沈殿しない	[1041]沈殿しない	[1042]沈殿しない	1043 MnS	1044)Mn(OH) ₂	1045 Mn(OH) ₂	(
	〔1047〕無色	1048)無色	[1049]無色	1050 淡桃 色	1051)白色	[1052]白色	
Zn^{2+}	[1054]沈殿しない	[1055]沈殿しない	[1056]沈殿しない	(1057)ZnS	1058 Zn(OH) ₂	[1059][Zn(OH) ₄] ²⁻	10
	〔 <u>1061〕無</u> 色	[1062]無色	[1063]無色	1064)白色	1065)白色	[1066]無色	
Cr^{3+}	[1068]沈殿しない	[1069]沈殿しない	[1070]沈殿しない	[1071]沈殿しない	1072 Cr(OH) ₃	[1073][Cr(OH) ₄]	
	〔1075〕無色	1076)無色	1077無色	1078無色	[1079] 灰緑 色	[1080]緑色	
Fe^{2+}	[1082]沈殿しない	[1083]沈殿しない	[1084]沈殿しない	1085 FeS	1086) Fe(OH) ₂	1087 Fe(OH) ₂	
	1089無色	1090無色	〔1091 <u>無</u> 色	[1092]黒色	1093 緑白 色	[1094]緑白 色	
Fe ³⁺	[1096]沈殿しない	[1097]沈殿しない	1098)Fe ²⁺	1099 FeS	1100 Fe(OH) ₃	1101)Fe(OH) ₃	
	〔1103 <u>無</u> 色	〔1104 <u>無</u> 色	[1105] 淡緑 色	1106黒色	[1107]赤褐 色	[1108] <mark>赤褐</mark> 色	
Cd^{2+}	[1110]沈殿しない	[1111]沈殿しない	1112 CdS	1113 CdS	1114)Cd(OH) ₂	1115)Cd(OH) ₂	1
	〔1117 <mark>無</mark> 色	1118無色	[1119]黄色	[1120]黄色	1121 白 色	1122 白 色	
Co ²⁺	[1124]沈殿しない	[1125]沈殿しない	1126 CoS	1127 Co(OH) ₂	1128 Co(OH) ₂	1129 Co(OH) ₂	
	1131無色	1132無色	[1133]黒色	[1134]青色	1135 青色	[1136]青色	
Ni ²⁺	〔11 <u>38</u> 沈殿しない	[1139]沈殿しない	1140 NiS	1141)Ni(OH) ₂	1142 Ni(OH) ₂	(1143)Ni(OH) ₂	1
	<u>1145</u> 色	〔1146 <mark>無</mark> 色	<u>[1147]</u> 色	[1148]緑白 色	[1149]緑白 色	[1150]緑白 色	
Sn^{2+}	[1152]沈殿しない	[1153]沈殿しない	1154)SnS	1155)SnS	1156)Sn(OH) ₂	$[1157][Sn(OH)_4]^{2-}$	
	〔1159 <mark>無</mark> 色	[1160]無色	[1161]褐色	[1162]褐色	[1163] 白	1164 白	
Pb^{2+}	(1166)PbCI	1167)PbSO ₄	1168)PbS	1169]PbS	(1170)Pb(OH) ₂	[1171][Pb(OH) ₄] ²⁻	
	1173 白 色	〔1174〕白	〔1175〕 <mark>黑</mark> 色	[1176]黒 色	1177 白 色	<u>1178無</u> 色	
Cu ²⁺	[1180]沈殿しない	[1181]沈殿しない	1182 CuS	1183 CuS	(1184)Cu(OH) ₂	1185)Cu(OH) ₂	1
	〔1187〕無色	[1188]無色	[1189]白 色	[1190]白色	1191 青白 色	[1192]青白 色	
Hg^{2+}	1194)沈殿しない	(1195)沈殿しない	(1196)HgS	(1197)HgS	(1198)HgO	(1199)HgO	
	〔1201〕無色	[1202]無色	[1203]黒色	[1204]黒色	[1205]黄色	[1206]黄色	
${\rm Hg_2}^{2+}$	1208)Hg ₂ Cl ₂	[1209]沈殿しない	1210]HgS	1211)HgS	1212]HgO	1213)HgO	
	1215)白 色	1216 無 色	1217 黒 色	1218]黒色	1219黄色	1220)黄色	
1 1	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		· —				1

	I	T			T		
	Cl^-	$\mathrm{SO_4}^{2-}$	$\mathrm{H_2S}$	$\mathrm{H_2S}$	OH^-	OH^-	
			酸性	中・塩基性	NH3	過剰	
Ag^+	1222 AgCl	[1223]沈殿しない	(1224)Ag ₂ S	1225 Ag ₂ S	1226]Ag ₂ O	1227]Ag ₂ O	[1:
	1229	1230無色	1231 黒色	1232黒色	1233 褐色	1234 褐色	

E 金属イオンの系統分離